

Web Fairy



Paradise

改訂：2015/12/24

第90号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第78回 WFP フェアリー作品展(再掲)
- ・ 第96回推理将棋出題
- ・ 第97回推理将棋出題
- ・ フェアリー版くるくる作品展5
- ・ ちょっと早い2016年年賀詰作品展
- ・ フェアリー入門:強欲詰、禁欲詰

結果発表

- ・ 第77回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第95回推理将棋出題
- ・ フェアリー入門:透明駒

読み物

- ・ 駒柱あるいは一文字あるいは年賀詰(神無太郎)
- ・ フェアリー作品かつてに紹介



2015/12

はじめに



今年の漢字

毎年この時期(公財)日本漢字能力検定協会が発表する今年の漢字は「安」という字でした。清水寺の森貫主が書かれた字を見るとひらがなの「あ」の語源というのがよく分かりますね。今年を漢字1字で表すと言う結構無理作り感のあるイベントですが、結構話題になるのでありなんでしょうね。

我が家ではこの字が発表されたことでちょっとした「やったね」感で満ち溢れたのです。来年2月に挙式をあげる娘の名前が「安奈」。その一文字となるとテンションも上がります。つい先日も式と披露宴を行う横浜市の式場でのイベントに参加してきてタキシードレンタルの打合せをしてきたばかりでした。

ただ選ばれたのが、安全保障関連法を巡る議論の高まりや、テロや自然災害で安心が脅かされたことが主な理由というのでは喜んではいけないところですね。ついでに言うと「安」の字が選ばれて喜んでいらしい「とにかく明るい安村」さん……………なんともねえ。

さて今年最後の WFP は、WFP 作品展をはじめちょっと早い 2016 年年賀詰作品展、くるくる作品展、フェアリー入門などなど安定のフェアリー作品が目白押しです。解答、投稿含めて楽しんで頂けると思っています。皆さん良いお年をお迎え下さい。

【募集】

は

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第90号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

今月は半期末のため新規出題はお休みです。
第78回WFP作品展の出題稿を再度掲載します。

〔第78回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第78回の出題は全12題。内訳は神無太郎氏1題、DD++氏3題、変寝夢氏5題、上谷直希氏3題です。出題は投稿順なので、難易度とは関係ありません。解き易そうなものから手を付けることをお勧めします。

78-1 は神無太郎氏の協力自玉スタイルメイト。「第43回神無一族の氾濫」向けに作られた作品の一つです。使われているフェアリー駒は「騎」。持駒を見ると飛や角といった大駒や、4枚もの騎という利きの大きな駒ばかりですが、これらをうまく処理して、合法手のない状態を作ってください。

78-2～78-4 はDD++氏による穴空き盤を使った作品です。「穴(今回から○で表記)」は、着手はできず、飛角香などが通過できる場所を表します。この3作は「穴」が斜・横・縦のストライプ状に配置され、見た目も美しいですね。もちろん外見だけではなく手順も面白いですよ。

78-5～78-9 は変寝夢氏によるバラエティに富んだ駒やルールの作品群。とはいえ、まったく新しい駒やルールではなく、一度は本作品展に登場したものや、その変種なので、過去問が良い参考になると思います。

まず、**78-5** は Moa という駒を使った作品。これは Mao (中国将棋の馬、合駒の利く八方桂) を 45° 傾けた利きを持つ駒で、本作品展では **64-2** として登場しています。Moa は Mao と合駒の利く場所が違うので混同しないよう注意してください。

78-6 は中立駒の Locust (蝗) が使われています。中立駒の先後双方にとって敵駒であるという性質、Locust は合駒を直後に取れないという性質をうまく利用してください。

78-7 は中立駒の銀が主役。スタイルメイトの達成にはこの銀を取らせるか動けなくしないといけません。可成範囲の近くなので、手番によっては成ることも可能な場合がありますが、果たして「成」は出てくるのでしょうか？ もちろんスタイルメイトの達成には Lion (鬣) の使い方も大きな鍵になります。今月の変寝夢氏の作品群の中では最も難しい作品かもしれません。

78-8 と **78-9** は前回も登場した「レトロ」ル

ールの作品です。このルールは、馬鹿な手を指した後で、「待った」をするのと同じなので本当に「ばか詰」的な感覚を味わえます。なお、今回の2作はどちらも攻方に王手義務があることを前提にしています。**78-9** は逆算手数ながいですが、駒数制限があるので逆算の方向性を間違えなければ、きっと解けるでしょう。

78-10～78-12 は上谷直希氏の作品。ルールはすべて異なります。

78-10 は普通の協力詰。でも、作品には上谷氏らしく、ちゃんと「狙い」があります。解図を始めるならきつとここからですね。

78-11 は今回唯一の協力系でない対抗系ルールの作品。「強欲」という条件が付いている以外は、普通の詰将棋と同じルール設定で作られています。「最善詰」ではありません。) また、作意には透かし詰が使われており、最終2手には変同があります。

78-12 は透明駒を使った作品。協力詰ですから、もちろん透かし詰はダメですよ。第76回の透明駒作品で予習をして臨んでください。

解答要項

第78回分解答締切: 2016年2月15日(月)
宛先: janacek789@ybb.ne.jp (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。) 宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展：年末年始の予定

来年1月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、今月の新規出題と来年1月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	12月	1月	2月
第77回	結果		
第78回	再掲	再掲	結果
第79回		出題	再掲
第80回			出題

ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dok>)

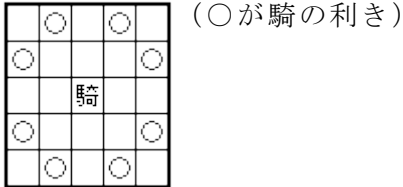
idoki.ne.jp/home2/takuji/wfpr2015.pdf)があるのので、それも参考にしてください。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かかっていないが合法手のない状態）にする。

【ナイト】（騎）

チェスのナイト。八方桂。



（○が騎の利き）

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【穴】（○）

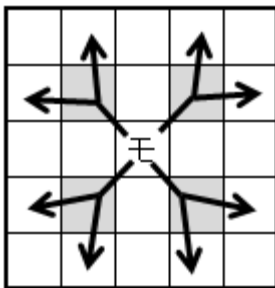
着手はできないが、走り駒が通過することはできる箇所。（※以前は◆で表記していましたが、○に変更しました。）

【協力自玉詰】


先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【Moa】（モ）

中国象棋の馬（Mao）の斜め版。合駒の利く八方桂。Maoが上下左右のマスに駒があると先に進めないのに対し、Moaは斜めのマスに駒があると先に進めない。



（一旦斜めに一マス進み、次いで縦横に一マス進んだ八方桂の位置に着地する。網掛けで示した所に駒があると、その先のマスに進めない。）

【中立駒】（「」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

横向きの字か横にnを付加して表記。

（補足）

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側

の駒や、中立駒は取れる。

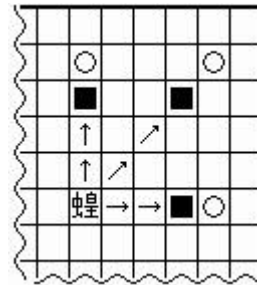
5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。

6) 中立駒は行き所ない駒にならない。

→詳細はWFP61号の「中立駒の紹介」参照。

【Locust】（蝗）

フェアリーチェスの Locust（蝗）。クィーンの利きの方向にある敵駒を跳び越えその先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



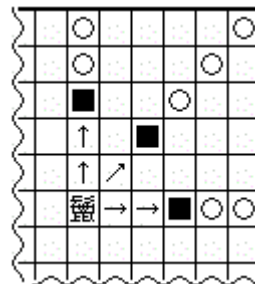
（○が蝗の利き。

■は敵駒。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていると跳べない。）

【Lion】（鬣）

フェアリーチェスの Lion。

クィーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



（○が鬣の利き。

■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。）

【レトロ -m+n手】

m手逆算してn手で詰む手順を求める。

（補足）

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する

【強欲】

駒を取る手を優先する。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→透明駒の詳細及び例題は、WFP83号「透明駒のご紹介」等を参照してください。

《第78回 WFP 作品展》(再掲)
 解答締切：2016年2月15日(火)

■ 78-1 神無太郎氏作
 協力自玉スタイルメイト 12手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
							王	王	九

持駒 飛角騎4
 ※騎：Knight

■ 78-2 DD++氏作
 協力詰 7手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

	○		○	飛	○		○		一
○		○		○		○		○	二
	○		○		○		○		三
○		○		○		○		○	四
	○		○	王		○		○	五
○		○		○		○		○	六
	○		○		○		○		七
○		○		○		○		○	八
角	○		○		○		○	角	九

持駒 飛
 ※○：穴(着手不可、通過は可)

■ 78-3 DD++氏作
 協力詰 17手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

○	○	○	○	○	○	○	○	○	一
桂		飛				飛		桂	二
○	○	○		○	○	○	○	○	三
				王					四
○	○	○	○	○	○	○	○	○	五
歩								歩	六
○	○	○	○	○	○	○	○	○	七
									八
○	○	○	○	○	○	○	○	○	九

持駒 香
 ※○：穴(着手不可、通過は可)

■ 78-4 DD++氏作
 打歩協力詰 53手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

○		○		○		○		○	一
○		○		○		○		○	二
○		○		○		○		○	三
○		○		○		○		○	四
○		○		○	季	○		○	五
○		○		○	季	○	龍	○	六
○	王	○	歩	○		○	龍	○	七
○		○	季	○		○		○	八
○	王	○		○		○		○	九

攻方持駒 なし
 受方持駒 なし
 ※○：穴(着手不可、通過は可)

■ 78-5 変寝夢氏作
 協力自玉詰 4手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
								王	七
									八
							王		九

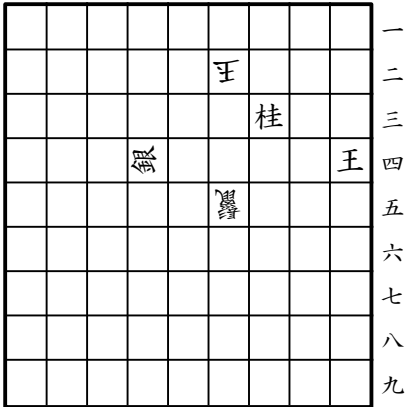
持駒 飛モ
 ※モ：Moa(中国象棋の馬を45度回転)

■ 78-6 変寝夢氏作
 協力自玉詰 4手
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

						王			一
									二
									三
					王				四
									五
									六
									七
									八
									九

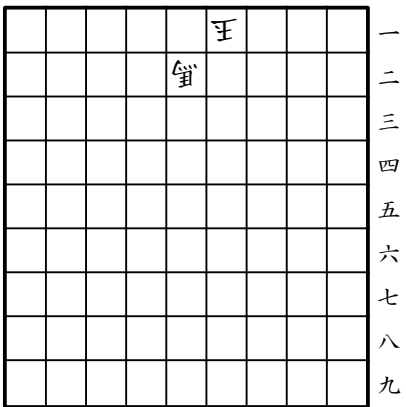
持駒 角n蝗
 ※n蝗：中立Locust

■ 78-7 変寝夢氏作
協力白玉スタイルメイト 10
9 8 7 6 5 4 3 2 1



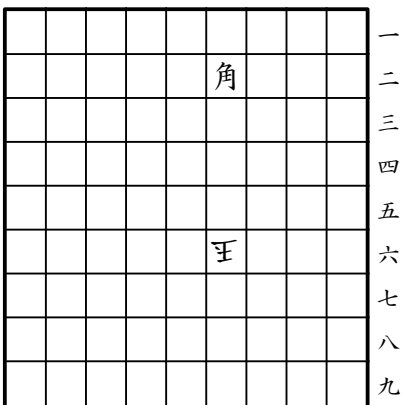
持駒 桂香
※鬮：Lion、n銀：中立銀

■ 78-8 変寝夢氏作
レトロ協力詰 -2+1手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



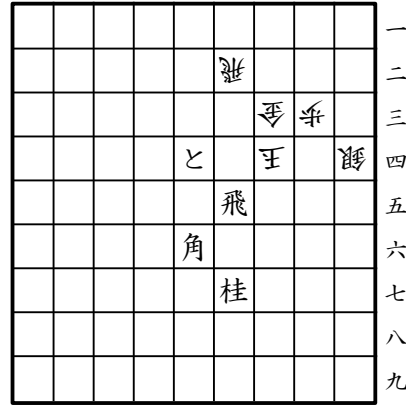
持駒 桂

■ 78-9 変寝夢氏作
レトロ協力詰 -10+1手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



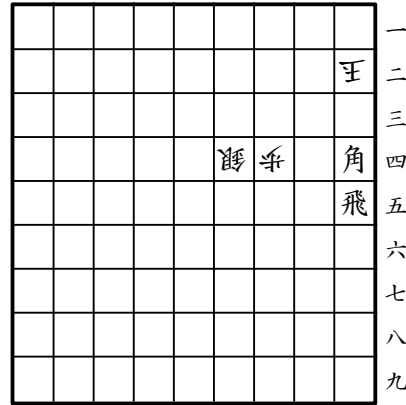
攻方持駒なし
受方持駒金

■ 78-10 上谷直希氏作
協力詰 5手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



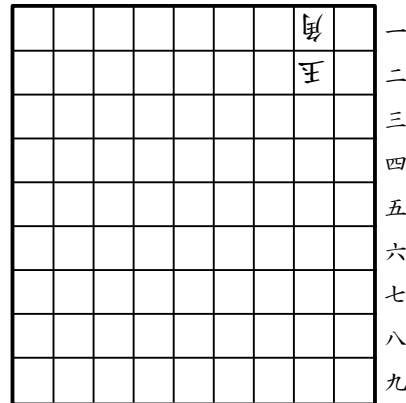
持駒 なし

■ 78-11 上谷直希氏作
強欲詰 7手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 角 桂

■ 78-12 上谷直希氏作
協力詰 5手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 香
※透明駒 攻方1枚、受方1

以上

推理将棋第96回出題

担当：NAO

度重なる余詰めで申し訳ありません。

96-2再修正。“角打ちまで”15手で詰んだ。【】条件を追加いたします。

会話文「【角打ちまでの】15手で仕上げてやったぜ」

条件文「【角打ちまでの】15手で詰んだ」
(11月29日NAO)

96-3修正も余詰がありました。再度の修正(成駒→直前の手で成った駒)で申し訳ありません。

(11月26日NAO)

96-2および96-3は余詰がありました。粗検深くお詫び申し上げます。

・96-2：不手際があり修正前の問題を出題してしまいました。修正版に差し替えいたします。

・96-3：「駒を取らない1筋の手が1手だけあった」を追加して修正といたします。

なお、解答につきましては元の条件を満たしていれば正解とさせていただきます。

(11月25日 NAO)

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第96回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2015年12月20日までにTETSUまで (omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第96回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1題でも解けたらぜひご解答ください。

推理将棋第96回出題 担当 NAO

今月は9手易問から15手難問まで3題を出題いたします。

その他、下記特集を予定。作品募集中です。

・第99回出題：9手詰(究極の9手、難解作)

・第100回出題：10手詰+難度ゼロ

・第101回出題：10手詰+1条件

■本出題

今回より作者の敬称は省略させていただきます。

96-1 初級 渡辺秀行 作

金引の謎 9手

“金引”と棋譜表記するために必要な手を推理しよう。

96-2 中級 チャンプ 作

美野樫9兄妹の一局(その10) 15手

2筋と7筋。離れた二つの筋の有効手を推理しよう。

96-3 上級 はなさかしろう 作

一番街の駒取り祭 15手

1筋の駒取りが5回。効率のよい取り方を推理しよう。

■締め切り前ヒント

96-1 初級：6手目は51に金を寄る手。

96-2 中級：8手目は同銀。15手目は6回目の22地点着手。

96-3 上級：駒成りは6手目△17角成と13手目▲11香成。両王手で詰み。

96-1 初級 渡辺秀行 作

金引の謎 9手

「謎だなあ、この41金引という棋譜は。たった9手で詰んだというのに」

「2手目と3手目は同じ筋に指したんだね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

・9手で詰んだ

・41金引という棋譜表記があった

・2手目と3手目は同じ筋に着手した

96-2 中級 チャンプ 作

美野樫9兄妹の一局(その10) 15手

健一「九美があんなに強くなってたとは驚きだな」

六実「八重ちゃんが一番相手になってあげたんだよね～」

八重「勝って当然ですわ」

隆二「兄貴、今日はやけに静観だな、やらないのかい？」

健一「ああ、なんか見てる方が面白くなってきてな」

隆二「らしくないこともあるもんだな」

健一「お前こそ、まだ物足りない感じなんじゃねえのか？」

隆二「そうかもな、じゃ次は七海と二人で行かせてもらおうか」

七海「え・・・わたくしとですか？」

九美「おおー？二人でするのぉー？」

隆二「引き立て役二人で敵を蹴散らしてやろうぜ」

七海「予期せぬ事態に動揺を隠せません・・・」

源三「なんや、珍しいペアで行きよったな」

六実「隆ちゃん頼りになるから大丈夫よ～」

四郎「ああ見えて七海も相当強いからね」

隆二「こっちの先手だな、さあ行くぜ七海」

七海「は、はい・・・」

・・・対局開始・・・

四郎「あ、終わったみたいだよ」

隆二「15手で仕上げてやったぜ」

隆二「俺と七海、二人で交互に指してやったよ」

隆二「成る手は無かったが、お互い角を打つ手があったな」

隆二「成る手は無かったが、同じ地点に6回も着手があったな」

七海「・・・察するに10手目の△33玉が問題かと」

圭五「二人ともすげえー！息の合ったパス回しに感動したぜー」

源三「ほお・・・やりよるなあ・・・」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・15手で詰んだ
- ・先手は2筋と7筋の手を交互に指した(初手は2筋か7筋のいずれか)
- ・成る手は無かった
- ・先手後手ともに角打ちがあった
- ・同一の地点に6回着手があった
- ・10手目は△33玉

96-3 上級 はなさかしろう作 一番街の駒取り祭 15手

「どうだった？ 最近町が静かすぎるから、リアル将棋祭を企画したんだけど」

「うん、面白かったよ。15手で詰んだみたいだけど、その間に成駒が2回と生駒が3回も取られたからね。しかも駒取りはすべて、目の前の1筋で起きたからラッキーだった。駒を取らない1筋の手はたったの1手だけだったよ」

「そりゃなんたって駒取りが華だから、特別観覧席のある一番街でやる決まりなのさ」

「なるほどそういうことか。実は、なにしろ盤が大きいから、局面がどうなっているのかまではよくわからなかったんだ。先手が歩の手を1回だけ指したのと、その手に対して後手が三段目の手で応じたのが、ちょっと変わってるなあとは思ったんだけど」

「やっぱり見づらいかあ。大型スクリーンとかドローンとか、工夫がいるかなあ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・15手で詰んだ
- ・駒取りは1筋のみで、成駒が2回、生駒※が3回取られた
- ・駒を取らない1筋の手が1手だけあった
- ・先手唯一の歩の手に対して後手は三段目の手で応じた

※生駒というのは成駒ではない駒のことです。

推理将棋第97回出題

担当：NAO

今回と次回は募集していた年越・年賀推理将棋の特集します。Pontamonさん、はなさかしろうさん、渡辺秀行さん、斧間徳子さん、DD++さんの5名の方から投稿いただきました。多数のご投稿ありがとうございます。年賀詰定番の11手詰が少なく、解き応えのある中編が揃いました。例年と比べると手数が多い分、難しいかもしれませんが、推理を存分に楽しんでいただけたら幸いです。

作品数が多いので、年賀特集は97、98回の2回に分け、次の通り変則出題といたします。

今後の本コーナー予定

第97回（年賀4題）：12月24日出題、1月20日〆切り

第98回（年賀4題）：1月1日頃出題、2月20日〆切り

第99回（9手詰難解作）：2月24日頃出題、3月20日〆切り

第100回（10手詰難度ゼロ）：3月下旬出題

第101回（10手詰1条件）：4月下旬出題
※第99回以降の特集作品も募集継続しています

■本出題

第97回は年越・年賀推理将棋特集の第一弾、11手から27手の4問を出題します。

1問目、はなさかさん作は先手着手地点の積が2016になる11手詰手順を2解求める問題。手数は短い今回の最難問です。2問目は2015年に最も多くの作品を投稿いただいたPontamonさん作の12手詰。一人ぼっちの玉が豪勢に詰め上げます。3問目は担当作。20手目16着手で28玉を詰ます手順で“2016”と“28”を関連づけました。4問目は渡辺さん作の27手詰。平成27年に届いた前年の年賀詰を振り返ります。続編の28手詰は次回に出題。

97-1 中級 はなさかしろう 作
指し初め*2016*二番 11手（2解）

3手目迄は必然手。1筋と1段目の上手な使い方を推理しよう。

97-2 中級 Pontamon 作

豪勢な詰め 12手

一人ぼっちの玉が詰む形を推理しよう。

97-3 中級 NAO 作

2016の決め手 20手

28玉が16の手で詰む形を推理しよう。

97-4 中級 渡辺秀行 作

推理敵からの年賀状 27手

8回目の端香の手で詰む形を推理しよう。

97-1 中級 はなさかしろう 作

指し初め*2016*二番 11手（2解）

「あけましておめでとうございます！指し初めに来たよ」

「謹賀新年！ではさっそく、振り初めを…。一局目は君の先手だね。恒例どおり、元日にちなんで11手で詰みにするとして、今年の味つけはどうする？」

「2016年だから・・・11手だと先手は6手指すので、それぞれの手の着手点の筋と段を示す数を全部掛け合わせたら2016になるように指してみようかな」

「なるほど。棋譜表記が同の手の場合でも、同じ着手点に何回か指した場合でも、一手ごとに着手点の筋と段の数を出して、得られた12個の数の積を2016にすることにしよう」

「うむ……いざ参る」

「よし来た、アシストは任せてよ」

「これで11手目、先手の着手点の筋と段を示す数の積が2016になって詰んだね」

「玉を寄る手に対して成る手で応じていたけれど、結局成る手はその一手だけだったね」

「今度は君の先手だよ」

「うむ……アシストは頼んだよ」

「これで11手目、先手の着手点の筋と段を示す数の積が2016になって詰んだね」

「今度も玉寄りに対して唯一の成で応じたけれど、手順は一番目と違っていたね」

「二番とも狙い通りで、幸先良いね」

さて、指し初めの二番とはどんな将棋だったのだろうか？

（条件）

1) 11手で詰んだ

2) 先手の着手点の筋と段を示す数の積が2016 ※

3) 玉寄りに対して唯一の成で応じた

以上の条件を満たす手順が2通り

※本問では、棋譜表記が同の手の場合も着手点

の筋と段を示す数をカウントしますし、同一地点に複数回着手があってもそれぞれ別個にカウントします。例えば、▲2六歩△4二玉▲2五歩△2四歩▲同歩△3二玉▲2五飛△4二飛▲2三歩成まで9手で詰みの手順の場合、先手の着手点は26～25～24～25～23ですので、着手点の筋と段を示す数の積は $2 \times 6 \times 2 \times 5 \times 2 \times 4 \times 2 \times 5 \times 2 \times 3 = 57600$ です。

97-2 中級 Pontamon 作 豪勢な詰め 12手

「おっ、年賀状か。推理将棋も付けるんだ」
「新年は2016年だから、16地点の駒を動かす手がある12手だよ」
「前年の元旦には”駒打ちは1回だよ”って電話して来たけど、これは大丈夫？」
「”1”の条件をたくさん付けたから、多分、大丈夫だと思うよ」
「どんな条件？」
「まず、詰んだ玉は一人ぼっち」
「何それ？」
「玉の周りの8マスに駒が無いってことさ」
「あとは？」
「駒成りは1回で、歩の着手は1回だよ」
「一人ぼっちだとか1回きりだとか、何か寂しい感じだね」
「いや、詰み上がりを見てよ。豪勢な感じの詰みだろ」
さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・12手で詰んだ
- ・16地点の駒を動かす手があった
- ・詰んだ玉は一人ぼっち(玉の周り8マスに駒は無かった)
- ・駒成りは1回
- ・歩の着手は1回

97-3 中級 NAO 作 2016の決め手 20手

「新年の指し初めはどうだった？君は後手番だったね」
「ああ、2筋の手を8回と1筋の手を1回指して勝ったよ」
「平成28年の元旦にぴったりだね」
「それだけじゃないよ。20手目16地点の着

手が初王手で28の玉を詰ませたんだ」
「なるほど、2016の決め手で平成28年の玉を捕らえたってことか。今年はイケイケだね」
「イケイケGOGOじゃないけど、こっちが5連続で2筋に着手した後、相手も5連続で2筋に着手したんだ。不成の手も5回あったよ」
さて、どんな将棋だったのだろうか？
そして2016年、貴方の勝負手は？

(条件)

- ・20手目16地点の着手が初王手で28の玉が詰んだ
- ・後手は、2筋に8回、1筋に1回着手した
- ・後手が5連続で2筋に着手した後、先手が5連続で2筋に着手した
- ・不成の手が5回あった

97-4 中級 渡辺秀行 作 推理敵からの年賀状 27手

「去年の年賀状を整理していたら、あいつからの年賀状が見つかったよ」
「ふむふむ、確かこんな問題を出題してきたなあ。どれ、見てみるか？」
<箇条書条件を見せる>
「今年の年賀はそれをちょっと変えて出してやったんだ」
「俺の作った返しも見せて欲しいだって？まあ、そう慌てるでない」

<箇条書条件>

- ・27手で詰んだ
- ・先手はある端歩を6連続で動かした後、ある端香を8連続で動かした
- ・駒成は不成だと反則になる場合だけ
- ・後手は、唯一の金の着手である金を寄る一手を除いて駒を安い順(※1)に指した
- ・後手は、同種駒に関しては9筋から1筋へ向う順に着手して行った(※2)

(※1)歩と香杏桂圭銀全金角馬飛龍玉の順
(※2)同じ筋に連続して着手するのは良いがより9筋側に着手してはならない。
例えば7筋に桂を着手すると、それ以降8筋9筋に桂を着手する可能性はなく、7筋に桂を着手する可能性はある。もちろん駒種が銀などに変ればまた9筋から着手しても良い。

第2回 フェアリー入門 担当：橋 圭伍

開催は3カ月に1回で結果稿は2カ月後位にするかとも思ったりもしています。色々な都合と相談しつつやっていますが宜しく御願致します。

第3回は「Q(クイーン)」を含む作品を募集します。ロイヤル駒のQも可です。多数の投稿お待ちしております。

募集要項

- 【課題】 「Q(クイーン)」を含む作品
- 【ルール】 最善詰、かしこ、協力詰
- 【手数】 1,3,5手
- 【投稿先】 keigotatibana@hotmail.com
- 【採用基準】 担当が1時間以内で解ける
- 【その他】

Q以外のフェアリー駒禁止、駒制限は可
 *投稿多数時は採用基準に漏れた場合に返送となる可能性があります。

【募集締め切り】 2016年3月10日

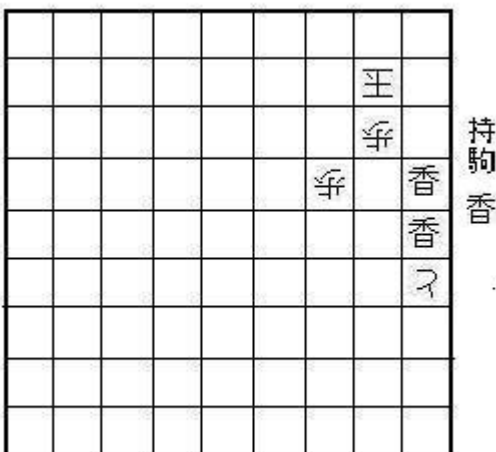
解答要項

- 【送り先】 keigotatibana@hotmail.com
- 【解答締め切り】

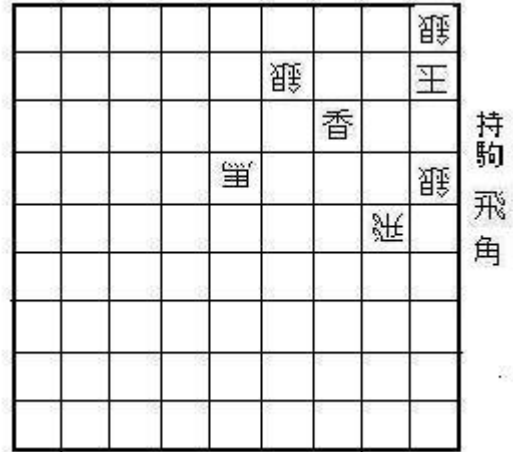
2016年2月10日

第2回出題稿「強欲」「禁欲」

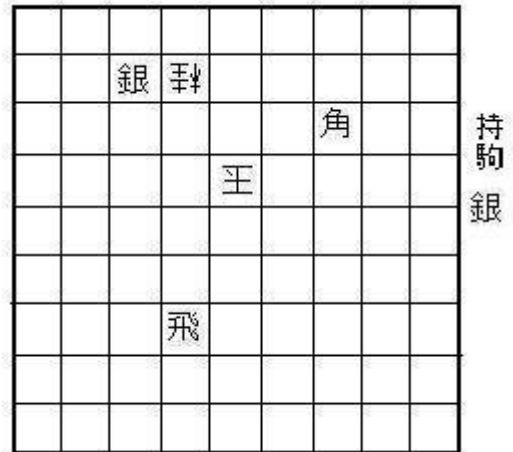
① DD++氏作 強欲協力詰 5手



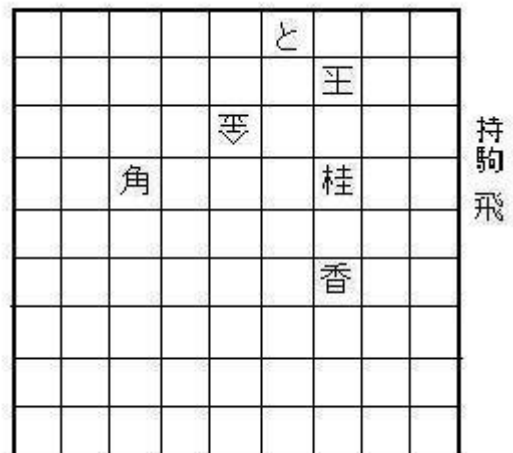
② 尾形充氏作 禁欲協力詰 5手



③ 上谷 直希氏作 強欲協力詰 5手



④ 上谷 直希氏作 強欲詰 5手



フェアリー版くるくる作品展5

WFP88号で募集しました、どこかで「・・・」×17と書くことが出来るばか自殺詰ですがなかなか投稿が無く企画がポシャリそうな感じでしたが12月に入りやよいさんより2作投稿頂き感激の涙を流しているところです。やよいさんは本家くるくるでの作品発表やWFP解答でもお名前を拝見する方ですが、WFPでの作品発表は初めてかなと思います。手数は長いですがもちろん手順はくるくる級で「・・・」×17(18)と略記できるものですので尻込みせず解いてみてください。

解答送り先：たくぼん takuji@dokidoki.ne.jp
締切：2016/1/15

なお引き続き募集は続けておりますので、さらなる長手数目指しての投稿よろしくお願ひします。

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で、攻方の王を詰める

くるくる8

やよい作 協力自玉詰 290手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
		金	金	香	遊				二
			玉			桂	金	金	三
		銀	桂	桂				香	四
					銀				五
						桂	香	王	六
						銀	香	角	七
							銀		八
									九

持駒 角歩18

くるくる9

やよい作 協力自玉詰 424手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						香			三
			金					香	四
遊						桂			五
					角	桂	皇	桂	六
	玉			角	桂	香	銀	皇	七
			遊		香				八
	香		香	香	王		香		九

持駒 歩18

引き続き作品募集

- ・ばか自殺詰
- ・持駒：歩18を含む
- ・通常盤
- ・解答で、どこかで「・・・」×17(18)と書くことが出来る
- ・通常駒数（後手持駒制限可・・・通常駒数以下OK）

*1歩消去サイクルが出来るだけ長手数になるよう期待しています。

送り先：WFP編集部まで



第77回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第77回WFP作品展の結果を報告します。
 今回は解答者7名と微増。全題正解者はたくぼんさんでした。全体の解答成績もやや上向き。詳細は以下の通りです。

〔第77回WFP作品展成績〕(敬称略)
 ○：正解 -：無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
変寝夢	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	8
一乗谷酔象	○	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	6
井上順一	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	5
占魚亭	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	5
詰ガエル	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	3
やよい	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	3

今回の出題数は11題。残念なことに77-5に余詰がありました。双方解者がいなかったため、余詰解も通常の正解と同じ扱いにしています。

■ 77-1 上谷直希氏作 (正解5名)

禁欲詰 27手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
								皇	四
				王					五
				銀		王			六
									七
				龍	皇				八
								爵	九

持駒 桂

【ルール】

・禁欲

駒を取らない手を優先する。

【解答】

27 銀 17 玉 18 銀 28 玉 17 銀 19 玉
 28 銀 18 玉 19 銀 17 玉 37 龍 27 飛
 18 銀 16 玉 17 銀 15 玉 26 銀 16 玉
 28 桂 同飛成 17 銀 15 玉 26 龍 同龍
 同銀 16 玉 17 飛 まで 27 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
								皇	四
					王				五
						銀	王		六
								飛	七
						皇			八
							爵		九

持駒 なし

【変化】

- (1) 2 手目 15 玉は 26 銀 16 玉 17 銀 27 玉 37 龍 18 玉 28 龍まで
- (2) 6 手目 18 玉は 38 龍 28 合 19 香 同玉 28 龍まで

【紛れ】

- (A) 17 手目 26 龍は同飛生で不詰

【作者のコメント】

狙いは飛の成らせ。禁欲でも受方の不成を試してみました。26 地点に銀で飛び込むか、龍で飛び込むのが焦点になります。

ところで、双玉、打歩詰を利用せず不成は可能なのでしょうか？どなたかつくってみませんか？

最近作者の意図が十分に伝わらないことが多く、実力不足を痛感して少し落ち込んでいます。それなのにこんな狙いをぼかすような逆算を加えるあたり、懲りないですね。

当初の図は、予想される通り 11 手目 37 龍からの 17 手詰です。この図での発表も十分ありえました。しかしそれでも逆算した理由も一応ありまして、

- 1, 初形で後手玉が 17 にあっては 14 香が浮いていて結構気持ち悪い。せめて△16 玉ぐらいの初形にはしたい。還元玉になるし。
- 2, 仕方ないとはいえ 18 銀~26 銀の 3 連続銀移動が若干冗長に感じる。全体の流れのなかに冗長さを溶け込ませたい。
- 3, どうせ余詰防ぎの配置は必要なのだから、せっかくならば活用したい

このあたりが作者の気持ちでした。そんなわ

けで銀追いの逆算が追加された次第です。一本道ならばちょっと嫌味ですが、その都度僅かながら変化はあるので、主眼へ向けてのウォーミングアップにはなってくれるかなと思います。**5手目 17銀**の瞬間に、攻めの切れた感じがあればちょっとうれしい。

【解説】

飛の「成らせ」が主題の作品。

「龍」は「飛」の利きを包含するので、飛の「成らせ」は純粋に利きを強化するのが狙いとなります。では、受方の利きを強化して何のメリットがあるのでしょうか？ 本局は協力系ルールではないので、受方の駒の強化は不利にしかならないはずですが。打歩詰打開？ そんな構想ならフェアリーでやる意味がありません。

本局で飛を龍にする狙いは自玉に逆王手を掛けさせることです。そうすれば「禁欲」でも駒を取らざるを得ないので、飛を取ることができるのです。

具体的に「成らせ」をどう実現しているか、見てみましょう。**17手目**すぐに**26龍**とすると「同飛生」と受けられて詰まないで「**26銀 16玉 28桂**」と進めるのがポイント。これには同飛成とせざるを得ません。同飛生なら**17龍**で**1手詰**だからです。（**12手目**が金合でなく、金合である理由も、この**1手詰**を防ぐためです。）

桂の犠打により、飛を無事成らせることに成功したので、銀追いで玉を**15**に戻し、**23手目**今度こそ**26龍**を敢行します。これには同龍しか受けがありませんが、これが逆王手になっているので、取る手以外の合法手が存在しなくなります。これで「禁欲」であっても駒が取れるわけですね。

以上が、本局のメインテーマですが、実際に解いた方は、主役は銀で、飛の「成らせ」は脇役のように感じたのではないのでしょうか。千日手に持ち込もうと逃げ回る玉と、それを燻り出そうと追いかける銀のコンビはまるで「トムとジェリー」です。

この銀追い手順が印象的過ぎて、狙いの「成らせ」が霞んでしまうことを作者は気にされていますが、心配ご無用。素材の持つ自然な性質を活かした本局の構成は、無理やり型枠にはめ込む作り方より好感が持てます。

また作者のコメントにある「双玉、打歩詰を利用せず不成は可能なのでしょうか？」という疑問も興味深いところ。これだけだと何だか条

件が曖昧ですが、読者の皆さんはこれを補完し、「〇〇において双玉、打歩詰に無関係な△△の不成は可能か」等という問いに変換することによって、新作を考えるきっかけにしてください。打歩詰のルールがそうだったように、何かを禁止するルールは、必ずそれを逆用した手筋や構想を生み出します。

【短評】

詰ガエルさん

飛車の成らせがうまい。

変寝夢さん（※無解）

VMと二人三脚で解図。こうすると変化もきっちり見ることが出来るんです。会合でよく集団で解図していた頃を思い出しました。銀の昇降が見事だが、**19銀**の前後の変化が禁欲らしいなあと思いました。

☆自力で解答できればそれに越したことはないですが、ヒントを貰って解図するのも（採点上は無解扱いですが）良い事だと思います。特に手数が多い作品の場合、最初の方で躓くと、そこから先の狙いを十分に理解できない場合があります。ヒントを貰いながら最後まで通して解図すれば、単に手順を並べるより、作品に対する理解が格段に深まるはずですが。

井上順一さん

17手目 26龍は同飛生とされて禁欲ルールで**16銀**とするしかなく詰まない。

そこで桂を捨てて飛を龍に変えてから**26龍**とすれば、同龍が逆王手となるので**26同銀**が可能となる。

12手目飛合以外は**28龍**から**18龍**、**28桂**とすれば詰むので作意もそちらかと思い、かなり考えさせられた。

銀が**10回**も動いて最後は還元玉の詰上がり。禁欲ルールをうまく使った好作と思う。

たくぼんさん

17手目 26同龍といくと飛生で詰まないの**28桂**、同龍の成らせ順を入れるとは見事な構想。

占魚亭さん

見事な銀捌き。素晴らしい手順です。

■ 77-2 上谷直希氏作（正解2名）

Isardam協力自玉詰 10手

										一
	王									二
										三
										四
						王				五
										六
										七
										八
										九

持駒 角 歩

【ルール】

• Isardam

同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。
玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。(タイプA)。

• 協力自玉詰

先後協力して攻方の玉を詰める。

【解答】

83歩 72玉 18角 27飛 同角 36飛
32飛 83玉 38角 同飛生 まで 10手

(詰上り)

										一
							飛			二
	王									三
										四
						王				五
										六
										七
							飛			八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

35飛成、35飛生の両刀の含みに対応しきれず、これにて終わりの詰め上がりです。もちろん、この詰め上がり自身にはあまり新味はないことは痛いほどわかっているつもりです。

勢い余って初手から19角と入ってしまうと、

28飛、同角、37飛に32飛が受けの手段になっていません。だからこそ初手は83歩として玉位置をずらして角筋を変える必要がでてきます。

最初からとどめの一撃が目の前にありながら、あえて一時的に応手を弱体化させる、この間合いの取り方が主張でしょうか。

また角筋変更により、3筋への飛合が直打ちとなることへの不利感があるかどうか…？

また細かいところですが、2手目81玉～92玉では作意と同じよう最後歩が邪魔になってしまうのもかわいらしい一面？

一見どうでもいいような（多くの場合、入るとしても入れない。私も普通なら入れない）最初2手の逆算ですが、表現のなかで意義を見いだせる今回の場合は例外と判断しました。もちろん様々な意見があると思いますし、見てくださった方々の意見から勉強させていただきたいです。

【解説】

冒頭2手が地味な好手。玉を横に一つ移動させるだけですが、この横移動は角の王手によって縦の違いに変換されます。

つまり初手から「19角 28飛 同角 37飛」と自然に進めると、2回目の飛合が7段目なので逆王手を受ける手がありません。飛で自玉を守ろうとしても飛成で玉を取られるので受けになりません。Isardamにおいて「成れる位置からの王手」は極めて強力なのです。

これに対し、作意のように一つずらすと飛合の位置が6段目、つまり成れない位置になります。すると、玉に飛で紐を付ける受けが成立し、これが同時に王手になるよう気を付ければ、手が続くというわけです。

段をずらすだけなら、2手目81玉でも同じように思えますが、作意同様に進めると83歩が邪魔になります。つまり2手目は邪魔駒化防止の手筋であり、持駒が香でなく歩なのは単なる余詰防ぎではなく、この紛れが狙いなのです。

詰上りは「成れる位置からの王手」を使います。38角の捨駒に飛の不成で取る最終手がそれ。わざと成らないことで、生のまま玉を取る手と成りで玉を取る手の2つの選択肢を残し、受けを利かなくするIsardam特有の手筋です。相手の選択に応じて出方を決める「後出しジャンケン」と同じ原理ですね。本局、手順表面には「生」しか現れませんが、内容的には「成」と「生」

の対比を含むので、前局 (77-1) と通じるものを感じさせる作品です。

ところで、この図を見て「持駒を香にできないか」と考えた人はいませんか？ 本局の渋い狙いとは意味が変わってしまいますが、83 香の短打もそれなりに味がありそうです。でも、これには次のような余詰筋があります。

89 香 88 飛 同香 87 飛 93 角 91 玉
31 飛 81 香 82 角成 37 飛生 まで 10 手

最終手 37 飛生が強烈。香筋を通して 82 馬を釘付けにすると同時に、攻方王を詰める一石二鳥の手筋です。この筋で双裸玉にまとめるとなかなか派手な展開になります（例：Isardam 協力白玉詰 36 王 +飛銀香, 81 玉 #8）が、これはこれでどこかで見たような手順ですね。双方の走り駒の対に駒を挟んで釘付けにする手筋も Isardam では頻出なので、ついでに覚えておきましょう。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

序の2手は歩以外なら入れたいけどなあ。多分 8 1 玉 3 5 玉の 8 手にするのかな。テーマはブログで取り上げている二歩禁の利き有効無効に関係あるような気がします。私は 1～3 段目にある可成駒は 4～9 段目にあるそれとは区別していて、前者を『イオン駒』と勝手に呼んでいます。Isardam やハレー彗星の説明に使えないかなと思っていますが、無理だろうなあ。

たくぼんさん

頭 2 手で紛れ増大。悪戦苦闘でした。
8 手だと解きやすいでしょう。

占魚亭さん

飛車で挟むのは第一感でしたが、出し方にいろいろ悩みました。

☆すぐに合駒を出したい形なので冒頭 2 手は効果的。でも、作者の意図は完全には伝わってなかったようです。フェアリーの「演出」は難しいですね。

■ 77-3 変寝夢氏作 (正解 6 名)

レトロ協力詰 -2+1 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
							金		九

持駒 なし

【ルール】

•レトロ -m+n 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。
(特に注釈のない場合、攻方王手義務があるものとして逆算する)

•協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。
(逆算手順でも受方は攻方に協力する)

【解答】

17 玉(+16 龍) 25 龍 / 28 金 まで -2+1 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
							龍		五
								王	六
									七
							金		八
									九

持駒 なし

参考のため、逆算図から出題図に至る手順と、逆算図からの詰手順を以下に示します。

(逆算図)

協力詰 1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							龍		五
									六
								王	七
									八
								金	九

持駒 なし

(出題図への手順) 16 龍 同玉 まで 2手

(詰手順) 28 金 まで 1手

【作者のコメント】

王手義務がないと余詰めが出ます。

【解説】

「レトロ」はチェスの Retrograde Analysis に由来する言葉。与えられた局面から棋譜を再現することです。この場合、目標は実戦初形に戻すことですが、詰物として出題される場合は、実戦初形ではなく 1 手詰が生じる局面に戻るのがポピュラーな出題形式です。本局はその出題形式を詰将棋に適用したものです。

詰将棋創作でも逆算は頻繁に使いますが、通常私たちは詰むと分かっている局面から逆算するのは妙な感覚です。それに、普段の逆算では余詰・早詰が出ないよう気を付けます。ところが「レトロ」では逆に早詰 (1 手詰) が発生するように逆算します。なにもかもあべこべで感覚が変になりそうですね。

本局はそんな「レトロ」に慣れ親しんで貰うための入門用作品です。

まずは状況を整理しましょう。逆算は 2 手なので、玉は 16 周辺から一つ動かせるだけ。逆算で発生させられる駒はせいぜい 1 枚。この条件で金と組み合わせて 1 手詰が可能なのは、龍・飛・銀くらい。攻方王手義務を考えると可能なのは龍のみ。玉と金は近い方が詰みやすいので、玉が龍を取って金から離れたのだろう…と、ここまで想定すれば作意の逆算を見つけるのは容易だと思います。

なお、本作品展で「レトロ」を出題する場合、逆算手順にも攻方王手義務があるものと想定し

てください。逆に 77-4 や 77-5 のように王手義務がないときは「非連続王手」という条件を明示します。

本局の場合、王手義務がないと「17 玉(+16 銀) 27 銀/18 金 まで -2+1 手」という余詰 (余逆算と呼ぶべき?) が生じます。今のところ、詰将棋のレトロを検討できるプログラムは変寝夢氏が作成されたものだけのようなので、創作される方は余詰にくれぐれも注意してください。

また、これは出題時に注釈が漏れていたのですが、レトロ協力詰の場合、逆算手順中でも受方は攻方に協力します。協力しないレトロも可能ですが、本作品展にも登場するのでしょうか?

もう一つ手順表記についても述べておきましょう。今回の結果稿では、次の流儀で手順を表記しました。

- ・逆算中に駒を新たに盤上に発生させるときは括弧内に+で表す
- ・盤上の駒を持駒に戻すときは「持」を付ける
- ・逆算手順と逆算後の手順を/で区切る

この表記はコンパクトですが、慣れないと読みにくいので、今回の結果稿では逆算図からの分岐という形でも手順を示しました。解答者の中には Kif 形式の分岐棋譜で解答を送られて来た方がいらっしゃいましたが、これは担当者にとっても手順の確認をしやすいので、レトロ以外のフェアリー要素がないときはとても良い方法だと思います。

【短評】

やよいさん

さすがにこれは一目でした。

井上順一さん

これは 16 に攻方の駒を復活させるしかないのだからわかりやすい。

たくぼんさん

今度フェアリー入門でやると面白そう。盤面に強力な龍がいきなり現れるのは面白い。

占魚亭さん

レトロ入門にぴったりですね。

☆本作品展でレトロが出題されたのは、はるか昔 (36-8 縫田光司氏作) にまで遡るので、本

局の入門用作品としての役割は大きかったですね。次局以降の解答の呼び水になったと思います。なお、36-8の結果稿では既発表のレトロもいくつか紹介しているので、ぜひ参考にしてください。



■ 77-4 変寝夢氏作 (正解 6 名)

非連続王手レトロ協力詰 -2+1手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

				馬					一
									二
					王				三
			飛	歩					四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【ルール】

• 非連続王手

攻方に王手義務がない。(王手しても良い)

【解答】

44 飛(+41 馬) 54 飛持 / 23 飛 まで -2+1 手

(詰上り)

				馬					一
									二
					王	飛			三
				馬	歩				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

(逆算図)

協力詰 1手

				馬					一
									二
					王				三
				馬	歩				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

(出題図への手順) 44 飛 41 飛 まで 2 手

(詰手順) 23 飛 まで 1 手

【作者のコメント】

是非詰め上がりから逆算してみてください。
どこに飛車打つとんねん、と感じませんか？

【解説】

前局と異なり、本局は「非連続王手」。つまり攻方王手義務がありません。王手義務がないと逆算の幅が広がり、解くのも作るのも難しくなります。では、具体的にどんな逆算が考えられるか、まずは1手前の手から考えましょう。

- 玉がどこかから 33 に動いた
- 更にこの時、攻方の駒を取った
- 歩を打った
- 飛がどこかから 41 に動いた
- 更にこのとき攻方の駒を取った
- 飛を打った

これで漏れがないか確認してください。攻方の駒を取った場合は、その駒の種類分(成駒も含めて)考えないといけないので、かなり多数の組み合わせになりますね。

更に1手前、攻方の手も考えましょう。

- 飛がどこかから 54 に動いた
- 飛を打った
- 飛は動かなかった(飛以外の駒の着手で受方に取られた)

幸い攻方の駒は飛1枚だけなので、これで済みましたが、これでも結構厄介ですね。

ここで、前局に出てこなかった要素について考えましょう。前局では逆算で盤上に龍が発生しました。つまり受方の駒台の飛を盤上に戻したわけです。本局では逆に、盤上の駒を攻方の駒台に戻す逆算手が出てきます。順方向に表現すると、攻方は「飛を打った」わけですね。

もし、「飛を打った」手に狙いを絞ることができれば、飛を打つ1手詰の形を探すことに集中でき、解図は比較的楽になったはずです。

作る方の立場から見ると、盤上の駒を攻方の駒台に戻す逆算を入れる場合、その駒がその位置のままで役に立ちそうな位置にいることが重要です。54 飛の配置に惑わされて「飛は動かなかった（飛以外の駒の着手で受方に取られた）」という可能性を中心に考えた方が多かったとすれば、この配置は成功だったと言えるでしょう。

【短評】

やよいさん

非連続王手だと途端に難しい気がしてしまいます。

井上順一さん

飛を持駒にすることに気づくまでが大変だった。これのおかげで、次の問題も解けた。

たくぼんさん

最近レトロ解いてなかったので持駒に戻せるのを忘れてました。過去作見直して思い出して解決。

占魚亭さん

飛車を持駒であることに気付くまで少し時間がかかりました。

☆自分の駒を駒台に戻すなんて将棋でやったら反則ですからね。この逆算に気付くのが遅れても仕方ないでしょう。



■ 77-5 変寝夢氏作（正解5名）※余詰

非連続王手レトロ協力詰 -6+1手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
			と						二
									三
龍									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 G

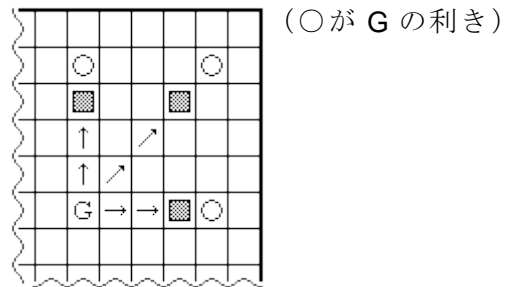
受方持駒 なし

※G：Grasshopper

【ルール】

•グラスホッパー（G）

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



【解答】

44 龍 52 と(+62G) 62G持 42 と

33 龍(+44G) 32 と / 22 とまで -6+1手

(詰上り)

								王	一
								と	二
						龍			三
					G				四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

(逆算図)

協力詰 1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
							と		二
							龍		三
				G					四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(出題図への手順)

42 と 44 龍 52 と 62G 同と 94 龍 まで 6手

(詰手順) 22 と まで 1手

【作者のコメント】

初形で先手の持駒Gを先手の駒として盤面に配置してみたかった。

詰め上がりは見当がつくと思います。

【解説】

盤上にある攻方の駒を攻方の駒台へ載せるマジック。

もちろん自分で自分の駒を取ることはできないので、それを実現するには、相手にその駒を取って貰い、それを相手に打って貰い、自分を取り返すという回りくどい手続きが必要です。それを「レトロ」という舞台を利用して、簡素形でやっつけてしまおうというのが本局の狙いです。

本局の狙いはもう一つあります。それは逆算後の1手詰をフェアリーメイトにすることです。作意解を見てください。一見 22 とは龍で取れそうに見えます。でもそうすると龍をジャンプ台にしてグラスホッパーが玉に利いてしまうため取ることができません。本局はこのグラスホッパー特有の詰上りを目標とし、逆算手順も凝ったものにするという意欲作だったのです。

が、虫の良い作意には得てして落とし穴があるもの。本来なら機械検討でそれを防げるはずだったのですが、そこにも穴が開いていました。龍や馬を生駒に戻す処理が抜けていたために、次のような余詰があったのです。余詰のパター

ンは次の2つに分けられます。

(余詰1) やよい氏の解

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
								王	二
							と		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(出題図への手順) 11 飛成 同玉 52 と 97 飛 62 と 94 飛成 まで 6手

(詰手順) 32 飛成 まで 1手

これは玉の移動が入るパターン。これならと金の移動が2回で済み、残りの1回を飛でGを取る手に回せます。この解はグラスホッパーを他の駒に変えても成立します。

もう一つの余詰はグラスホッパーの性能を活かした手順です。

(余詰2) 井上順一氏、たくぼん氏、一乗谷酔象氏の解

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
								王	二
				龍		と		王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

※52 龍は飛でも可、12Gは22Gも可

(出題図への手順) 42 と 52G 同と 97 飛 62 と 94 飛成 まで 6 手

(詰手順) 22 と (または 41 龍 等) まで 1 手

作者以外の解答者は全員余詰解で作意解はなし。特に玉は不動だろうという先入観を覆す、やよい氏の解には驚かされました。

本作品展では担当は原則として検討を行わないので、作者自身による検討が頼りです。投稿前には入念なチェックをお願いします。機械検討の場合は、その機械自体のチェックも忘れずに。

【短評】

やよいさん

たぶん誤答。なぜグラスホッパーを使っているのか (正にそこがポイントなのだと思いますが)、判りませんでした。

井上順一さん

97 龍生 52 と 97 飛持 42 と (52G) 12G (52 飛) 32 と + 22 と まで -6+1 手
記譜法が怪しいので付記。

6 手逆算局面は、攻方 32 と、52 飛 (龍でも可)、受方 11 玉、12G。そこから、42 と 52G 同と 97 飛 62 と 94 飛成 で出題図。

逆算初手は非限定で、また 5 手目 22G とすると 1 手詰が駒余りとなるので、作意ではなさそう。G を打って詰ますのは無理なので、龍を攻方の駒とするのは、あってると思うが。

たくぼんさん

非限定が多いので余詰順でしょう。作意は分かりませんでした。

攻方：32 と 52 龍、受方：11 玉 12G、
持駒：双方なし

手順：41 龍

出題図に至る手順：42 と 52G 同と 97 飛 62 と 94 飛成

☆作者以外の解答者は全員余詰解で双方解はありませんでした。本局の狙い自体は面白いものなので作者の捲土重来を期待します。



■ 77-6 変寝夢氏作 (正解 3 名)

最善詰 11 手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																馬	歩	飛	一
																		王	二
																		歩	三
																			四
																			五
																			六
																			七
																			八
																			九

持駒 姫2

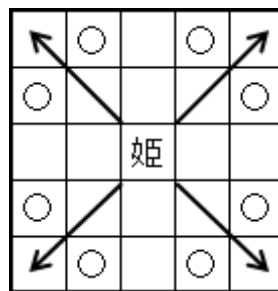
※姫: Princess (角+騎)

【ルール】

• Princess (姫)

フェアリーチェスの Princess。

角とナイトを合わせた利きを持つ。



(○に着手する、または矢印の方向に走ることができる。)

• 最善詰

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。

(普通の詰将棋から枝葉を取り除き、攻方最短を義務化したもの)

【解答】

11 姫 同玉 23 姫 22 玉 41 姫 12 玉

23 金 11 玉 22 金 同角 23 姫 まで 11 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						香	科	王	一
							馬		二
						姫	香		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

実は23～22金の送りの手筋が気に入っています。

【解説】

対抗系ルールで無仕掛けから単騎詰。こんな難しい条件も強力なフェアリー駒を使えば楽々実現できます。73-7、74-8から続くシリーズ第3弾です。

初手は「玉は下段に落とせ」の格言に従う11姫の犠打。当然のように取られて、また無仕掛になってしまいますが、これは玉の上部脱出を阻止しながら、王手金取りを掛けようという狙いです。「姫」のように強い駒と比べても、金の方が便利だというのは面白いですね。

23 姫の王手金取りから金を入手した後は、これをうまく活用して単騎詰で詰め上げます。詰上り図で、桂の利きによる王手、角の利きによる退路封鎖の一人二役を Princess が行っていることを確認してください。

本局の手順で一番面白いのは、作者も気に入っているという金の活用法です。「最初から22金と打てるのに、なぜ一拍おいてから捨てるのか？」という疑問には「角の利きによる王手だと同玉と取られるが、桂の利きによる王手なら同玉とできないから」という答えが用意されています。すぐに捨駒をせず、一拍置いて捨てる時間差捨駒には他の意味付けも考えられると思うので、読者の皆さんも研究してみてください。そして普通詰将棋ではできない、フェアリーらしい意味付けの作品ができれば、ぜひ本作品展へのご投稿をお願いします。

【短評】

井上順一さん

無仕掛単騎詰シリーズ(?)の一作。
広そうな玉だが、姫の連打で急に狭くなる。

たくぼんさん

まず初手から真面目に考えましたが変化と利きが判りづらく断念。多分姫の単騎詰と予想して詰上りを考えて解決。

☆逆算解法が有効なのは協力詰だけではないのですね。

■ 77-7 変寝夢氏作 (正解2名) ※実質1名

協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
		雀					香		三
									四
						王			五
									六
									七
									八
									九

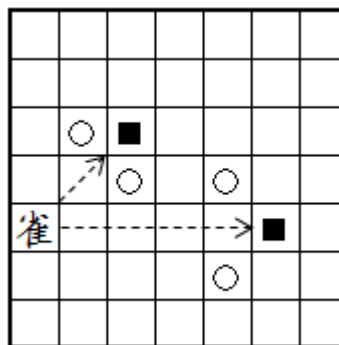
持駒 桂香

※雀: Sparrow (135° Grasshopper)

【ルール】

• Sparrow (雀)

フェアリーチェスの Sparrow (雀)。
グラスホッパーの変種で、クィーンの利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し135° 曲がった場所に着地する。



(○が雀の利き。■は敵または味方の駒。)

【解答】

37 桂 26 玉 34 雀 15 玉 17 香 まで 5 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							垂		二
					雀				三
							王		四
									五
									六
					桂		香		七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

Eagle、Moose とくれば Sparrow ですよね。

【解説】

協力詰で離し香の詰上り。すかし詰は無効なはずなのに！

本局はグラスホッパーの変種、Sparrow という名前を持つ駒が使われています。虫の変種になぜ捕食者である鳥の名前が付けられているか…というどうでも良い疑問はともかく、奇妙なのはその性能。グラスホッパーのように素直に台駒を跳び越すのではなく、135°曲がって戻ってきます。そして本局では奇妙な性能を奇妙な方法で活用します。

初手 37 桂は Sparrow の利きを利用した王手。頭の丸い桂を玉頭に打つなんて、まるで対面ルールですね。これに 26 玉と受けた後、34 雀が慣れないと気付きにくい王手。この Sparrow は玉の居る 26 だけでなく 24 地点にも利いており、37 桂の 25 への利きと合わせて2筋に壁を作っています。

そして 15 玉の後に注目の最終手、17 香が登場します。この手に対して合駒はできません。合駒すると Sparrow によって自玉への王手が発生するからです。もし、最終手が 16 香のように直接打(実は両王手になっている)だと「同玉」で何ともないのですから、合駒が利かないことが一層不思議に思えます。仮に受方の駒が 16 に利いていても役には立ちません。

念のために付け加えると、17 香の位置は限定。18 香のように二つ以上離すと今度は本当に合駒されてしまいます。

方向が曲がるホッパーをバックに、走り駒で王手して合利かずの詰上りを作る手筋は、原理

的には Eagle や Moose でも可能だったわけですが、今回の Sparrow で初登場となりました。作者以外の解答者が一人だけだったという事実は、その手筋の発見の困難さを表していると思います。

【短評】

たくぼんさん

協力詰で離し香での詰上りとか確かに曲者。

☆これは一度見たら忘れられない詰上りですね。

Sparrow だけでなく Kangaroo(2枚跳び越すホッパー)でも同じような筋があるので、ぜひ覚えておいてください。

■ 77-8 変寝夢氏作 (正解3名)

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				王					二
									三
				王					四
									五
									六
									七
									八
									九

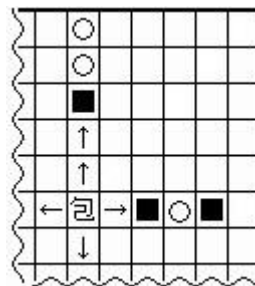
持駒 包2

※包: Pao (象棋の包)

【ルール】

•パオ (包)

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



(■は敵か味方の駒。○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。)

【解答】

51 包 53 角 41 王 63 玉 13 包 23 角 まで 6 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				包	王				一
									二
			王	鬣			鬣	包	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

4 1 玉～6 3 玉の流れが気に入ってます。

【解説】

本局と次局は同じような舞台設定で異なる展開を見せるペア。盤上の配置は同じで、持駒が似通っています。本局はパオ（包）、次局はLion（鬣）です。共に駒を1枚跳び越して、その先に着地するホッパー族の駒です。もちろん違いもいくつかあります。

- ・包の利きは縦横。
鬣の利きは縦横斜め。
- ・包は（駒取りでなければ）跳び越さなくても飛のように動ける。
鬣は跳び越さないと動けない。
- ・包は駒取りでなければ跳び越せない。
鬣は駒取りでなくても跳び越せる。

これらの違いが詰手順にどう反映するか注目して本局と次局を鑑賞してください。

まずは、包を使った本局。初手は1手しかありません。すぐに見える筋は「51 包 53 飛 41 王 43 飛成」ですが、31 地点の埋め方に困ります。でも、自玉を一段目に運ぶことと、31 地点を埋めることの重要性に気付けば、飛ではなく角合をすることは気付き易いと思います。

面白いのは41 王に対して受方が63 玉と反対側に動くこと。一見すると43 玉とする方が有力に見えますが、実際に「43 玉 73 包 63 角」と進めると「52 包」の受けが残っていて詰みません。飛のように動ける包の性質がここで活かしているわけです。

作意は63 玉に反対側の端から包を打って23

角合までの詰上り。包なのでこの合駒は取れません。筋違いの角が交差する詰上りは、いつ見ても鮮やかですね。

【短評】

たくぼんさん

これはきれいに出来ている。
合駒も角2枚と揃っているのも好印象。

一乗谷酔象さん

第一感は飛車だった。
41 玉に43 玉だと52 包があり失敗。

■ 77-9 変寝夢氏作（正解2名）※実質1名

協力自玉詰6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				王					二
									三
			王						四
									五
									六
									七
									八
									九

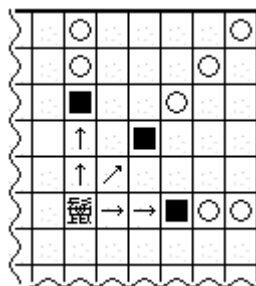
持駒 n鬣2

※鬣:Lion、中立駒

【ルール】

• Lion（鬣）

フェアリーチェスのLion。
クィーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



(○が鬣の利き。
■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

• 中立駒（「鬣」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。
横向きの字か横にnを付加して表記。
→詳細はWFP61号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【解答】

51n 鬣 53 飛 42 王 44 玉 71n 鬣 62 飛
まで 6 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		鬣		鬣					一
			飛		王				二
				飛					三
					玉				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

詰め上がりが面白いと思いました。

【解説】

前局と本局には持駒の種類他に、もう一つ違いがあります。本局では持駒が中立駒になっていることです。もしかしたら前局の紛れ筋を読んだ人で、次の手順が今度の作意と勘違いした人がいるかもしれません。

51n 鬣 53 角 41 王 43 玉 83n 鬣 63 角 まで？

これは最終手に対し 51 玉で詰みません。中立駒は取れるのです。本局で Lion が中立駒であるのは、この紛れを消すためでもあるのです。

包と Lion の違いを活かすという意味では

51n 鬣 53 角 41 王 64 玉 31n 鬣 42 金 まで？

のように斜めの利きを活用する手順も考えられますが、これも中立駒を取れるので詰みません。

本局を詰ませるには、発想の転換が必要です。自玉は一段目ではなく、捕まえにくそうな二段目に動かさなくてははいけませんし、中立駒は壁駒ではなく敵駒として活用するのです。

その意味が分かるのが本局の詰上り。市松型の綺麗な詰上りですね。合駒で発生させた飛2枚に加え、一段目に並べた Lion 2 枚で飛の代わりをさせ、実質飛3枚によって自玉を空中捕捉しています。

前局は角2枚の合駒で本局は飛2枚の合駒という対比のある2作ですが、難解さと詰上りの鮮やかさは本局が数段優ります。

【短評】

たくぼんさん

今度は飛2枚。前作とセットで見事な対比。中立駒が余分？だが仕方ないでしょう。

☆前局の角2枚との対比がヒントになるのではないかと期待したのですが、作者以外で解けたのはたくぼんさんだけでした。中立駒が敵駒としても使えることを意識して解かないと、42 王はちょっと指せないのでしょうね。



■ 77-10 変寝夢氏作 (正解3名)

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
				王					二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 薔2

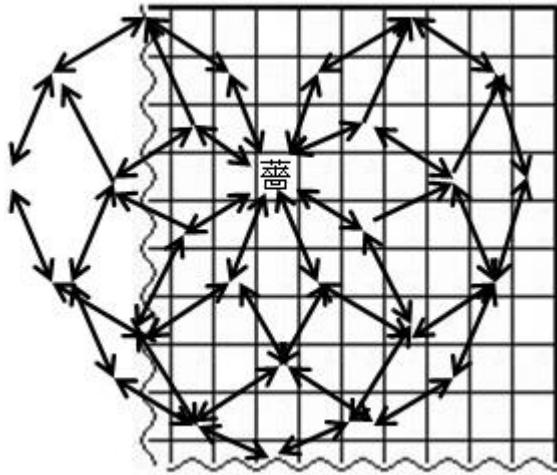
※薔: Rose (円形NightRider)

【ルール】

• Rose (薔)

フェアリーチェスの Rose。

円形に進むナイトライダー。途中に駒があったり盤をはみ出したりするとそこから先に行けない。



【解答】

16 薔 37 飛 96 薔 56 角 31 薔 同飛成
まで 6 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						飛		王	一
				王					二
									三
									四
									五
薔				角					六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

飛角合の順番が限定されている所が主張。

【解説】

Rose はそれ 1 枚だけで両王手ができます。下手をすると 4 重王手になることもあります。その性質は本局では有難くありません。両王手をしてしまうと合駒ができないからです。これは自玉詰系の作品では大問題です。

そこで両王手にならない Rose の打ち場所を探すのですが、Rose は利きが大きいため、闇雲に打って両王手になるかどうか確認しては非効率です。最初に玉を中心にして Rose の軌道を描き、打ち場所を絞り込みましょう。実際に図にすると次のようになります。

〔参考図〕 玉を中心にして Rose の軌道を描く

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王	一
				王						二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

この図を見ると、Rose の打ち場所は 16 箇所。例えば 12 薔は 12→33→52 と 12→31→52 の 2 つのルートで両王手になるのでだめ。31 薔だと近すぎて合駒できません。両王手にならない(合駒ができる)場所は 16 か 96 に絞られるわけです。作意は両方から王手をして、自玉を詰めるのに必要な飛と角を発生させ、最後に 16 薔を 16→35→43→31 のルートで活用し、飛に取らせて自玉を詰めます。

それにしても奇妙なのは、5 筋の玉に 16 と 96 という対称的な位置から王手しているのに、なぜ打順が限定されているかということです。試しに順番を逆にすると 16 薔の利きが 56 角で止められて王手になりません。56 が 16 薔と 96 薔の利きの交点になるので、先にこちらに合駒してはいけないわけですね。

玉が不動なのに同種の駒の利き筋の重複を気にしなければいけないというのは、利きが曲がった駒ならではの現象で、直線的な利きの駒ばかり扱ってきた我々には新鮮です。77-7 で登場した Sparrow もそうですが、曲者の駒は曲者の手順を見せてくれます。

【短評】

詰ガエルさん

薔の動きを確認するだけという感じですが、結構好きです。

たくぼんさん

利き方向がいくつかあるので、自玉詰に最適な駒かも。

8 手で 2 つとも動かすのも面白そう。

☆正直、自分が解答者だったら Rose を使った

問題は解く前から白旗を上げたくありませんが、慣れればそうでもないのでしょうか。例えば「対面」ルールも昔は結構無茶なルールに感じましたが、今はそれなりに対応できていると思います。フェアリー駒も怖がらずに、とにかく動かしてみる事が大事ですね。

■ 77-11 たくぼん氏作（正解4名）

協力自玉詰 50手

	銀	銀								
香	香	歩	歩							
	王				歩					
飛		桂	桂	香						
	歩		玉	香						

攻方持駒なし
受方持駒 飛

【解答】

88歩 77玉 97飛 88玉 87飛 99玉
97飛 98飛 同飛 89玉 87飛 88歩
99飛 同玉 97飛 98飛 同飛 89玉
99飛 同玉 79飛 89飛 同飛 同歩成
97飛 88玉 98飛 77玉 97飛 87飛
同飛 同玉 67飛 77飛 同飛 98玉
97飛 88玉 98飛 87玉 88飛 同と
67飛 77飛 同飛 98玉 97飛 89玉
79飛 同と まで 50手

(詰上り)

	銀	銀								
香	香	歩	歩							
飛					歩					
		桂	桂	香						
	王	ス	玉	香						

攻方持駒なし
受方持駒 飛

【作者のコメント】

くるくる向けに創ったのですが、さすがにちよつとくるくるには厳しいかなということ。

考え方は分かりやすいので楽しめると思います。

【解説】

狭い密室の中、使用できる駒は飛2枚と歩1枚だけ。自玉を詰めるには、歩を成らせるしかありません。そこで盤上の歩を相手に渡し、歩合をさせて、それを「と金」にするという方針を立てることができます。しばらく考えると、歩を9筋に合駒するのは上手くいかないのに、「88歩合→89歩成→88と→79と」のように使うことも分かるでしょう。

注意すべきは飛の供給を絶やさないことと、余分な手数を掛けないこと。例えば5手目87飛の代わりに98飛と進めると、以下「77玉 97飛 87飛 同飛 同玉 67飛 77飛 同飛 98玉 97飛打 89玉 87飛右 88歩」と進み、作意には合流するものの、大幅な手損をします。

まずは大まかに解いて、とりあえず詰む手順を見つけてから無駄を省いていくのがこの種の作品の解法の定番ですが、「ここはこの手順しかない」と決めつけ過ぎると、短縮順を見落とす危険があります。先入観にとらわれず、丁寧に読むことが必要です。

初形を見ると96香は歩にしても良いですし、75銀は不要。5筋の配置も受方57香1枚で済むなど、中途半端な印象を与える配置が残っていますが、これは受方持駒制限なしの図を目指していた名残でしょうか。手順は「くるくる」向けに作り始められただけあって、分かり易いストーリーを素直に楽しめると思います。

【短評】

詰ガエルさん

程よく考えどころがあって楽しめました。

変寝夢さん（※無解）

詰め上がり予想が外れていました。この手は詰め上がりが見えないとどうしようもない。絨毯爆撃はしない主義なんで。

たくぼんさん

ホッとするルールですが、自作なので解図しないのが残念。

一乗谷酔象さん

5手目以降 98 飛 77 玉 97 飛 87 飛・・・の
手順に迷い込み 54 手解になった。98 飛をお
いたままの 10 手目 89 玉が見えづらい。

占魚亭さん

79 と迄なのは明らかなのですぐ解けるだろ
うと思ったのですが甘かった。
と金を作るまでかなり苦労しました。

☆正解者 4 名は本作品展では多い方（苦笑）で
すが、やはり「くるくる」には厳しい作品で
した。

【総評】

たくぼんさん

それにしても知らないフェアリー駒多いで
すねえ。50 も半ば越えると対応が大変（笑）。

☆見慣れない駒は頭の中で自然に動いてくれ
ないので辛いですね。出題時には今回の鬼
門は Sparrow (77-7) と Rose (77-10) を
使った 2 題だと思っていたのですが、両題
ともクリアしたのは見事です。

私も最近根気が続かなくなったので他人
事ではないのですが、「解答者なし」はでき
るだけ避けたいので、たくぼんさんには頑
張って欲しいと思います。

以上



【追記】

たくぼん

77-11 の七郎さんのご指摘について、75 銀不
要、96 香→歩についてはご指摘の通り、当初
の手順では必要だったものが改良していくにつ
れて不要になったりしたものです。これはお恥
ずかしい限り。5 筋配置については無防備図式
にして後手玉の可動域を明確にしようと思った
もので、いまでもどちらが良いのか悩むところ
ですね。正解者は思ったより多くてホッとして
います。

77-11 改良図

											一
											二
											三
											四
											五
	銀										六
	歩	香	歩	歩							七
		王			歩						八
	飛		桂	桂	香						九
		歩		玉	香						

攻方持駒 なし
受方持駒 飛

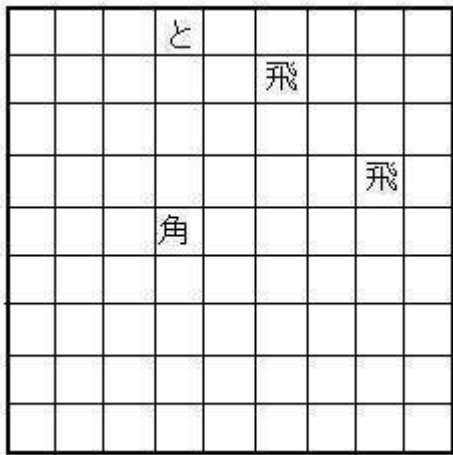
総評欄、私もなるべく「正解なし」を避ける
ため頑張っています、WFP 発行人が解答で
頑張る図もちょっと異様な感じですので他の方
には是非とも頑張ってくださいと思っています。

第1回フェアリー入門結果稿

担当：橘圭伍

初めに
透明駒を最初としましたが機械検討できてない
及び担当がルールに慣れていないために多数の
余詰を出しました。透明駒に慣れている方に確
認の上余詰認定を行っております。今回此方の
都合により作者に確認できていない事を深くお
詫び致します。反省を生かして次回からは機械
検討可能なルールにしております。

① DD++氏作 最善詰1手 (0+1) 余詰



作意：62 飛成 まで 1手

たくぼん氏

王探し。これはちょっと違った透明駒の楽しみ方

井上順一氏

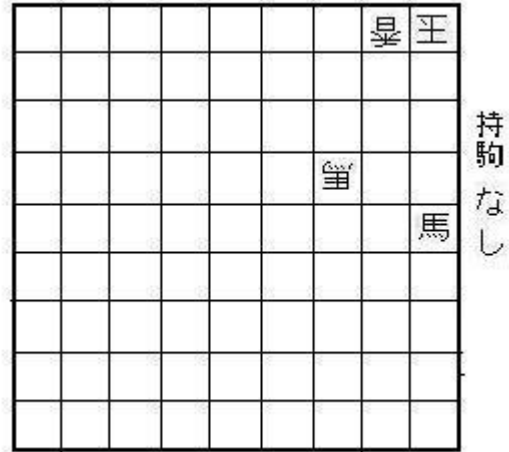
見落としががないとすれば、複数解の記述漏れ？

DD++氏

92 角成で余詰んでました。粗検お詫びいたします。71 の逃げ道を誤って塞いでしまいました、お恥ずかしい。

* 先に作意が見えてしまったために見落とししていました。玉探しだったので……

② DD++氏作 協力詰3手 (1+2)



作意：33 馬、12 馬、-X まで

たくぼん氏

両王手ばかりに目がいって透明駒を取る手があるのに気付かなかった。自作もその筋なのに……

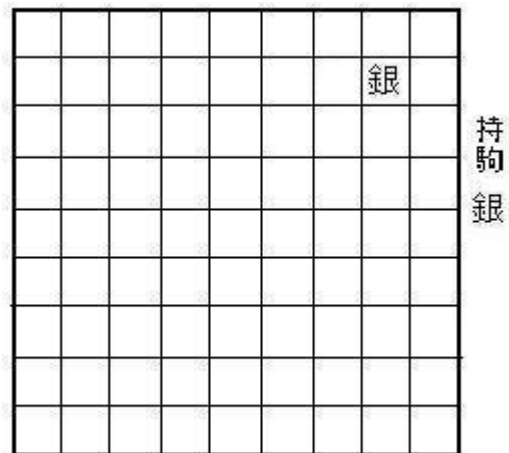
井上順一氏

2 手目の 12 馬まででわかることは、16 以遠に攻方の透明駒(飛龍香のいずれか)があることと、22 に受方の透明駒があること。3 手目に透明駒で王手ということは、初手で 33 にいた受方の透明駒の桂を取り、それを 23 に打った場合しかあり得ず、これで詰んでいる。

DD++氏

最初玉方 23 馬だったんですが、形がいかにもだったので 34 へ移動。たぶん相当見えにくくなったんじゃないでしょうか。

③ 会場健大氏作 協力詰3手 (1+1) 余詰



作意：11 銀生 同 X 12 銀 まで 3手

たくぼん氏

-X 23 歩 13 銀打 迄 3 手

23 歩合と 13 銀打で後手玉は 12 に居ると証明・・・でいいのかな？

- * 上記手順で余詰でした。-X に対して 23 合により初手は飛または角による王手であり更に 13 銀打が王手となるのは 12 玉形のみです。
- * 作意は下の通りですが……

井上順一氏

11 銀生 同 X 12 銀 まで 3 手

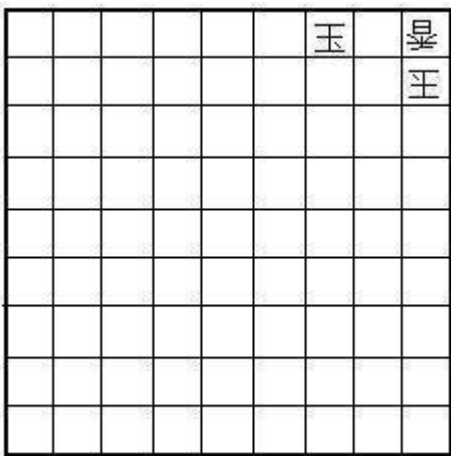
2 手目の 11 同 X により、初形で透明玉が 12、攻方の透明駒(飛か龍)が 32 から 92 のどこかにいることが判明する。初手の生が決め手。

DD++氏

14 銀、-X、13 銀上成 まで

攻方透明駒は何かの余詰防止でしょうか。ところでこれ、「-X、23 合、13 銀打 まで」でも詰むような気がするのですが、何か見落とししてますかね。

④ Dolores von Nierenstein氏作 作意不成立 協力詰 3 手 (2+0)



作意：-X 13 角 -X 迄 3 手

- * 詰ます為には逆王手を利用するしかない形となっています。王手は透明駒を使うしかないので初手は-X です。これに対する王手が問題で 13 角以外であれば最終手-X が限定出来ず 23 王で逃げてしまいます。では、13 角、-X であればどうかというと 13 角が逆王手でない=22 に攻方透明駒がいるとす

るとその駒は飛・金以外である為に最終手で-X と指したとするとその王手は透明駒を 22 から別の地点へ動かした事となり逆王手の反則となります。つまり、この 13 角は必ず逆王手であり最終手はそれを防ぐ、22 飛または 22 金などしかないのもこれで詰みとなります、というのが作意でしたが……。

井上順一氏

初手は 1 筋の飛か龍か香。3 手目は逆王手を防いでかつ王手をかける手(22 金打や 22 歩成等)となり、詰みとなる。しかし 22 に透明駒がいたとすると 13 角は逆王手にならず、14 龍 13 角 23 龍 の可能性があり 23 玉で不詰となる。

- * 上記の通り不成立でした

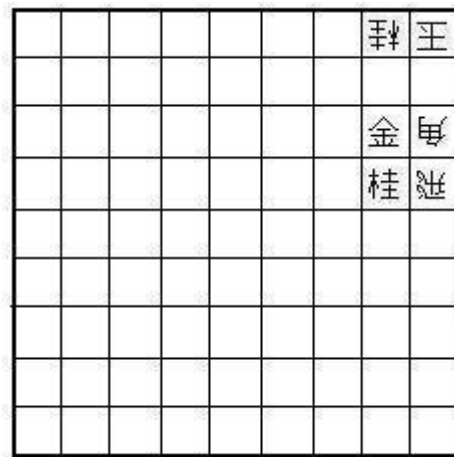
たくぼん氏

入門には最適と思う難易度

DD++氏

わかりません、ギブアップ。23玉逃げの主張が強すぎるので23合で埋めるしかないと思うのですが、何を合駒しても詰みそうにない。

⑤ たくぼん氏作 協力詰5手 (0+1)



作意：22 金 同角 12 桂成 同飛 -X 迄 5 手

解説：

道中で透明駒を取って詰ますという展開を目指します。先に 12 桂成だとこれを透明駒で取られてしまい透明駒を取れません。なので、先に 22 金同角を挟んで 12 桂成とします。これに対して同飛して-X とすれば何れかで

透明駒を取って打った事が証明される為に-X=23 桂しかない事が判明し詰みとなります。

たくぼん氏

紛れはないので簡単だと思います。

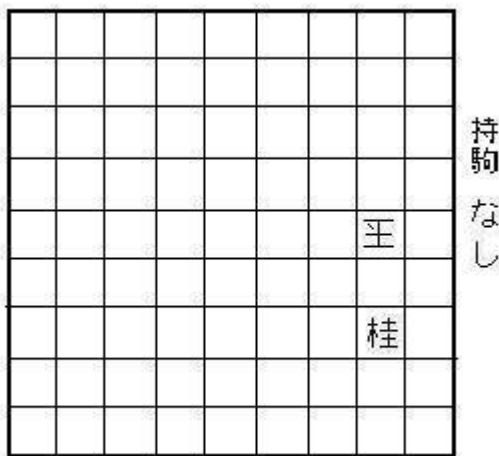
井上順一氏

最終手が王手となるためには、初手が3手目に透明駒の桂を取って5手目に打つ場合しかないので詰み。

DD++氏

おっとネタかぶり。

⑥ 上谷直希氏作 協力詰5手 (2+1)



作意

35 桂 15 玉 23 桂成 14 玉 24 圭 まで5手

作者

例えば-X,23 金,+23,14 玉,24 金で詰みそうですが、これには+24 と対応されてしまいます。玉方の透明駒を如何に無効化するのが鍵となりそうです。とりあえず2種のバッテリーを披露する序の3手ですが、これで暴かれるのは攻方2枚の透明駒だけではありません。特に5段目の飛(龍)が問題になります。初形が王手放置の違法な局面ではないと言いたいならば、同じく5段目に何かしらの遮蔽駒(つまり玉方の透明駒)の存在が必須となるわけです。2手目が透明駒の着手ではない(透明駒は5段目に留まっている)のに3手目が王手となるのは、つまり受方の透明駒は35にかつて在って桂馬にすっぱ抜かれているということ。よって盤面に最終手の成桂を取ることのできる駒は残っておらず、詰みと言えるわけです。遮蔽駒、なかなか創作意欲

をそそられる題材だと思います。

井上順一氏

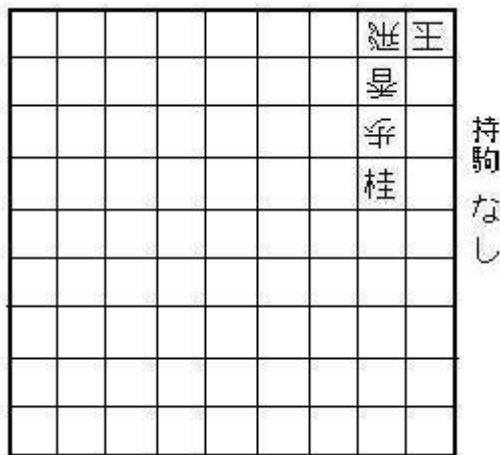
初手により、28か29に攻方の透明駒(飛龍香のいずれか)、また3手目で、45と95の間に攻方の透明駒(飛か龍)がいることがわかる。初形で王手がかかっておらず3手目が王手となることから、35に受方の透明駒がいたことになる。5手目の局面は、圭には縦からヒモがついており、15には横からの効きがあり、受方の透明駒は攻方の駒台にあるのでこれで詰み。15 桂 14 玉 23 桂成から考えて失敗。横からの王手が気づきにくかった。

DD++氏

透明駒作品集で透明駒が一度も動かないとは!

* 詳しい解説は作者コメント及び井上氏のコメントで語られています。35 桂~23 桂成とする事で後手の透明駒が取られた事及び2筋及び5段目に駒の利きがある事が証明できてしまいます点です。簡単な構図ですが非常に簡潔で素晴らしい作品となっています。

⑦ 上谷直希氏作 かしこ詰5手 (1+1)



作意: -X 18 飛 同香 同 X 12 飛 迄 5手

作者

初手+21は、同玉か+21ぐらいでいくら飛が一枚手に入ったとしても自身の透明駒を失ってしまっは苦しい。-Xからの導入しかなさそう。しかしこれに対する応手がなかなか難しい。簡単などころから考えるとO-X

透明駒を透明駒で取ったと言えたとしたならば不詰ではあるが、更に-Xと返されると合駒の透明駒を取ったことが確定してしまうので早詰。○12合 同桂成で大丈夫。+12では更に+12(飛か龍)と応じられるので注意。よって中合を考えるべきらしい。単純な中合から考える。例えば13歩などは、確かに+13とすれば+13と更に取り返して逃れる。しかし13歩合を取らずに-Xとするのが鋭く、つまり初手の透明駒の着手で玉方の透明駒を取ったと主張するのだ。この手に対応するために2手目金合としたとしても、同手数駒余りにしかならない(-X,13金合,-X,12金,+12)。この考え方は他の地点の中合でも同様に使用できる(例:-X,14金合,-X,13金,+13)。玉方の透明駒がすでにないのがなによりの強み。初手で玉方の透明駒を取ったと主張できないようにしたい。そのための18への中合である。もし初手が香車ならば、持駒由来としか言いようがない。しかし初手が飛車ならば9段目の飛車で19の駒を取ったと主張できてしまう。そこで18「飛」合とすることで飛車を品切れとし、初手は香だと決めてしまうのが最長の延命策となる。これで玉方の透明駒を取った可能性は完全になくなった。18同香として、これに対し中合をしても同香。どの地点でこの香を透明駒で取ったとしても12飛までの詰め上がりは変わらないので無駄合と判定しました。単純に+18とする。飛車を品切れとすることで延命した玉方だが、皮肉にも玉方の透明駒が飛車ではないことも同時に示されてしまった。よって最終手を透明駒で取り返すことはできず詰みとなる。2筋配置が見苦しいです。例えば23歩と24桂を▲23とにでも統一できたら嬉しいのですが、そうしてしまうと

- 1, 初手12歩合に対しての同とに+12(例えば34の角)と取り返されてしまう
- 2, 4手目、13金合が無駄合とならない(同香なら+13,12飛,+12、12飛なら同金、同香成で変長)

* 初手は-Xしかないが此れに対する応手が問題となります。この応手で初手に透明駒を取った事が証明された場合は全て早く詰んでしまいます。2手目金合の手順では取られた事が確定しているので盤上にはない事が

証明されている為に同手数駒余りとなっています。なので、2手目は透明駒を取られていない事を証明したい、という事で18飛!と打ちます。これにより初手の-x=19香(飛車は品切れ)となります。19香は確定で打たれたものなので先手の透明駒はもうありません。なので、先手は取り返し、同xとなった局面では-xは飛車ではあり得ませんので12-16に飛車を打てば詰みとなります。品切れ及び駒位置を限定する2手目が妙手でした。私自身が似た筋を考えた事があった為に解けたのですが難しかったようです。

井上順一氏
変化例

-X 17金 -X 16金 同 X まで5手で金余り透明駒でも無駄合とすれば駒余り同手数か。ただこのあと-Xとされると12金 同 X 同桂成 まで9手(透明駒余り)となる。2手目18飛以外の合駒だと、初手に受方の透明駒を取った可能性があるのも、この手順が成立する(飛金合以外では、3手目で詰み)。2手目18飛だとその時点で初手19香が決まり、受方の透明駒を取った可能性はない。-X -X -X まで3手 2手目が透明駒の応手だった場合3手目を透明駒の着手とすれば、初手飛か龍か香、2手目合駒、3手目取りの可能性しかないので詰み。

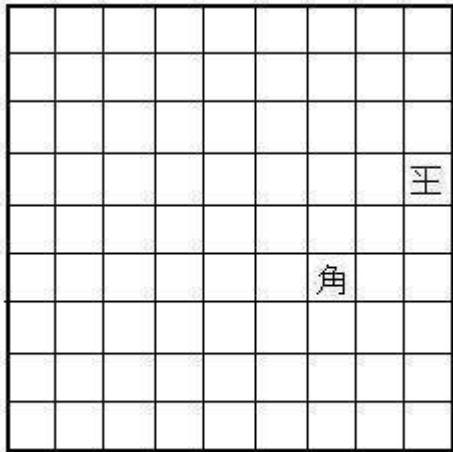
たくぼん氏(誤解)

-X -X -X 13歩 -X 迄 5手
3手目の-Xで2手目に取られていないことを証明でいいのかな。

DD++氏(誤解)

-X、-X、-X まで(?)
かしこってことは無駄合概念ありですよ。初手に対する不透明合駒は13-18なら無駄合、3手目に対する合駒も無駄合。となると2手目は-Xか12合しか選択肢がなくて、後者は同桂成で3手駒余りなので、これで早詰が成立してそうに思えますが……2手目に何かとんでもない妙防が潜んでいたりするのでしょうか。あるいはこれでは詰んでない?

⑧ 中山省吾氏作協力詰5手 (1+0) 余詰



攻方持駒 金
受方持駒 なし

作意： -X 15 玉 -X 14 玉 24 金 迄 5 手

作者コメント

玉の上下で 25 の透明駒が飛車に決まる。初形と 4 手目の局面が同じ。受方の持駒制限は、--X 15 玉 --X 16 合 25 金 を防ぐため。

* 解説は井上順一氏の短評で語られています。

井上順一氏

唯一の透明駒は 25 にあって飛桂香歩のいずれか。4 手目に 14 玉を可能とするためには、初手で 25 から動かした透明駒を 3 手目に再度 25 に戻す必要があり、これができるのは飛のみ。4 手目から 16 玉 27 金(この場合は 13 桂成 15 玉 14 圭 16 玉 という順も考えられる)とするのは、26 飛 15 玉 16 飛 同玉 27 金 15 玉 とされる順があつてだめ。うまく限定されている。

* 2 手目が 23、24 でも飛車である事が主張出来ていました。

DD++氏

見てびっくりする初形。しかし 2 手目が非限定 (23 玉や 24 玉でも可) なように思いますが、どうなのでしょう

たくぼん氏

-X 15 玉 -X 16 玉 27 金 迄 5 手まででも

【総評】

たくぼん氏

よく考えたら橘さんが 1 時間以内って時点で入門じゃないレベルでしょう。10 分くらいが妥当だと思います。

* 最近は解けないですから 1 時間程度でいいかなと思っています。特定のルールなら 10 分とかになりますけど……

DD++氏

作っていても解いていても見落とす見落とす。最終的な解答も何か勘違いしているものが混ざってそう。

* すんなり解けた為に余詰検討が……今後の糧にします。



推理将棋第95回出題解説

担当：NAO

出題：平成27年10月24日
 解答締切：平成27年11月20日

今月の解答者は28名。おかげさまで最多解答者数更新です。

95-1 初級 Pontamon さん作 七の段の九九 (7×8=56) 9手

「パパ、今日、学校で七の段の九九を習ったよ」
 「そうか、じゃ、シチハは？」
 「56だよ」
 「偉いな。パパも7×8=56の九九を使った推理将棋の問題を作ったぞ」
 「どんなの？」
 「78地点と56地点に駒を打つ9手詰みの推理将棋さ。駒成りは1回だけなんだ。すごいだろ」
 「そんなの、僕、わかんないよ」

さて、どんな将棋でしょうか？

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・78地点と56地点へ駒を打った
- ・駒成りは1回だった

出題のことば (担当 NAO)

56と78の二カ所。どの駒を打つか推理しよう。
 追加ヒント
 トドメの1手は53飛成。

推理将棋95-1 解答

- ▲7六歩 △4二飛 ▲3三角不成 △5二玉
- ▲4二角不成 △9九角不成 ▲5六飛 △7八香
- ▲5三飛成 まで9手

詰上がり図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞		丞	爵	科	皇	一
				王	角				二
歩	歩	歩	歩	龍	歩		歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
		皇					飛		八
皇	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

(条件)

- ・78地点と56地点へ駒を打った(7手目▲56飛、8手目△78香)
- ・駒成りは1回だった(9手目▲53飛成)

本作"7×8=56"は前作92-1"7×5=35"に続く九九シリーズの第二弾の易問です。

駒打ち2回を推理して解いていきましょう。まず、駒打ちは"先手が2回"か、"先後1回ずつ"か？

・先手駒打ち2回の場合、先手の着手は▲76歩～▲22角成～▲駒取り(11,31,32地点)～▲駒打ち～▲駒打ちの手順。最終9手目駒打ちで詰ます形は、51玉型に対する▲41飛(金)、52玉型に対する▲53銀、▲54香などだが、56や78に打つ形はない。

・先後駒打ち1回ずつの場合、先手は後手5筋に効かせて詰みに働く"56に飛を打つ"のが第一感。また、後手は要の先手角を残しながらの駒取り～駒打ち："99の香を取って78に打つ"手順。ここで先手の「▲76歩～(飛取り)～▲56飛」と後手「△99角～△78香」が噛み合う詰形"52玉型に53飛成"が正解手順となる。

・初手から「▲76歩 △42飛 ▲33角不成 △52玉 ▲42角不成 △99角不成」先手が飛、後手が香を入手。7手目から「▲56飛 △78香 ▲53飛成」まで。

先手5手+後手2手に遊びの2手を足した手順で、後手の選択肢が広い手順ですが、前作同様、巧みに九九と関連づけながら簡素条件に仕上げた軽い作品です。

それではみなさんの短評をどうぞ。

Pontamon(作者) 「第 91 回の 1 条件用に作った $8 \times 7 = 56$ は、mixi に酷似作があることに気付いて断念。紆余曲折の末、 $7 \times 8 = 56$ の駒打ちに落ち着いた作品です。角の位置は違うけど、初級は 2 ヶ月続きで 52 玉に 53 龍の詰み形です」

渡辺 「「56」と「78」を $7 \times 8 = 56$ としたのは一つの工夫。本問の場合は「5678」と連番なので元々記憶しやすいですが。ちなみに本問は「55」と「33」でも成立し(もちろん作意と同様の手順)、これだと紛れが増えて本格的な問題になっていたかも」

■ 類型の「55 と 87 の地点に着手あり」は渡辺さん作(詰パラ 242 番)でした。本作は駒打ちを九九に絡めてきれいにまとめました。

斧間徳子 「理詰めで解ける手順に好感。条件文の 78 を 72 などとした方が紛れが増えて難しくなりそうなところ、掛け算に語呂を合わせて 78 としたのは解答者に優しい配慮」

■ 本作では詰みに効きそうな先手の着手が"78"か"56"か推理させています。では、"72"か"56"ではどうか？紛れでなくて"72 飛"の筋で余詰みます。▲76 歩 △42 飛 ▲33 角不成 △52 金右 ▲42 角不成 △同銀 ▲72 飛 △56 角 ▲71 飛成まで。

小山邦明 「後手の詰む玉の位置は、56 の駒打ち条件から 52 玉と予想されるのでわかりやすかったです」

■ 居玉より詰ませやすい 52 玉形。的確な推理でした。

小木敏弘 「飛車取りと詰みにも貢献する角。56 といえばやっぱ飛車か香ですね」

■ 9 手詰となる先手の香打ちは 54 だけでした。なので飛車打ち。

柘彰介 「56 に飛打ちが詰めに役立ちそうと気づいたら、94-1 と似た詰め上がりだったのでそこからは一気に解けました」

金少桂 「56 と 78 両方が遊び手とは考えづらいのでとりあえず 56 が詰みに関係のある手と考えれば先手の香か飛打ち。となると 53 が焦点。42 で飛を受け取ればぴったり。遊び手の 78 駒打で後手玉や飛の動かすタイミングが限定されるのがうまいと思う」

はなさかしろう 「よくよく考えれば大本命の 5+2 手ですが、目立つはずの 56 飛がなんかうまいこと薄められていて結構迷いました。パアの飄々とした感じ、いいですね」

まさ 「56 へ駒打ちとなればこの形が基本形」

山下誠 「56 の駒が飛車だと気付くまでに数日を要しました。うまい条件です」

占魚亭 「9 手で詰ますのに必要で、56 に打てる駒は飛車しかない(香は手数的に無理)。条件設定が上手いですね」

S.Kimura 「56 飛に気づいて、ようやく解けました」

■ 予備知識があれば一目の"52 玉～56 飛～53 飛成"ですが、知らないと発見まで苦労します(実は楽しめます)

攻めダルマン 「54 飛、55 香か 55 飛、56 香だと面白いと思った」

■ 9 手では 56 飛でない間に合いませんね。

孔明 「78 への駒打ちは後手の手だと直感したんですが、取らせる駒が角だと思い込んでなかなか解けませんでした。ただこれを無視して解くとあっさり解けました」

波多野賢太郎 「78 に打つのは場所的に考えて後手だろうと思いました。詰み形が見えて手順もすぐ閃きましたが、九九とからめて、うまく手順が限定されているなあと思いました」

はせ次郎 「先手角を後手に取らせると思い込んでいたため香を取る手（99角不成）が全く見えず苦労しました。どうしてこれが初級なの？とずーっと思っており結局3問中で最後に解けました。先手角で飛車取って（これは見えてました）、後手角で香取ってが見えてからは数分で解けました」

加賀孝志 「78に打つ。呆気にとられたヒント条件」

隅の老人B 「我彼で角生、香打は何処でも良いのに78の地点とはね」

NNN 「78というのが先手の手のようでもありましたが、56の有効手は53飛成をみた飛打ちと分かれば、78は後手に指させざるを得ません」

諏訪冬葉 「56角だと全く使えなそうなので飛車を取る順は見えました。78はきつと後手が打つと思っていました」

はらたつ 「78に打つのは後手だとすれば1手で取れるのは香かな、としたら見えました」

たくぼん 「9手で後手78駒打と言え、99角、78香が大本命ですよ」

■先手が2回打つ手順が詰まないことがわかれば、後手の78香打ちが見えてくる仕掛けでした。

くるぼん 「駒成り1回の条件で他をナラズ確定にしようとはなんというか」

■99不成を限定するためだけです。元々33,42は不成限定、53は成限定なので。

変寝夢 「プラス条件"初手76歩"、"5手目で飛を持つてる"、"7手目には56飛がある"で1分半114万局面でした。打の位置が78なのがどうかというところか」

■計算条件にかなりヒントが入ってきましたね。

DD++ 「56→78で登場が逆順、おいしい。式に答えで応じる局は作るの難しいんでしょうかね」

■九九の組み合わせも少ないので、できれば希少価値あります。

飯山修 「56といえば飛打、78といえば遊び手と考えればスラスラ。九九シリーズは理論的には何通り成立するのでしょうか（60くらい?）」

■九九シリーズはPontamonさんからいくつ投稿いただいておりますので、続編をご期待ください。

正解：28名

飯山修さん S.Kimuraさん NNNさん 加賀孝志さん くるぼんさん 小木敏弘さん 斧間徳子さん 金少桂さん 孔明さん 小山邦明さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 攻めダルマンさん 占魚亭さん たくぼんさん DD++さん のくせにさん はせ次郎さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん はらたつとさん 変寝夢さん Pontamonさん まささん 榊彰介さん 山下誠さん RINTAROさん 渡辺さん

95-2 中級 渡辺秀行さん作 と金と成駒 11手

「と金を成駒で取ったって？それでどうなったの？」

「うん。11手で詰んでしまったよ」

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・と金を成駒で取った

出題のことば (担当 NAO)

と金を早く作る手順を推理しよう。

追加ヒント

9手目の31歩成で銀を取る。10手目は同龍。

推理将棋95-2 解答 担当：NAO

▲7六歩 △3二飛 ▲3三角不成 △5二玉
 ▲4二角不成△3七飛成 ▲3二歩 △5四歩
 ▲3一歩成 △同 龍 ▲5三銀 まで11手

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	駒	香		香	龍	科	皇	
二					王	角		馬		
三	歩	歩	歩	歩	銀	歩		歩	歩	
四					歩					
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩		歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 なし

(条件)

- ・と金を成駒で取った(10手目△31同龍)

本作は11手詰を最小1条件で表した傑作です。1条件とはいっても、"と金を成駒で取った"の中にはヒントとなる情報がいくつか詰まっています。歩が成る手、相手の駒が成る手、成駒がと金を取る手を推理していきましょう。

と金を作るには、歩を突き進めて成るか、打った歩を成るか、いずれでしょうか？

・歩を突き進めて成るには4手必要。歩が成ってきたと金は、後に取られるので攻めには使えない。ならば後手の歩突き、先手の角成りの手順が有力。たとえば「▲96歩 △94歩 ▲97角 △95歩 ▲53角成 △96歩 ▲31馬 △97歩成 ▲同馬」と後手のと金を先手馬が取るよう進める手順が有力だが、残り2手では足りない。

・結局、歩を打ってと金を作る手順が早い。足の速い大駒を活用し、先手角が歩を取り、歩を取った筋の歩を取らせながら後手飛が成り、先手が歩を打つ。有力なのは3筋と4筋。

・3筋：先手角が33に飛び込んだ後、後手飛が37に成る手順。「▲76歩 △32飛 ▲33角不成 △XXXX ▲42角不成 △37飛成」と進める。後の歩成で銀を入手できるので4手目は△52玉として、7手詰の基本型の一つ"52玉形+▲42角～▲53銀"で詰みに至る。7手目以

降「▲32歩 △54歩 ▲31歩成 △同龍 ▲53銀」まで、これが作意手順。

・4筋：先手角が44歩を取り、後手飛が47に成る手順。「▲76歩 △44歩 ▲同角 △XXXX ▲53角成 △47飛成」と進む。後の歩成で金を入手できるが・・・7手目以降「▲42歩 △XXXX ▲41歩成 △同龍」と進み、詰まない。たとえば8手目△72金あるいは△32銀と守りの効きを外しても41龍の効きが強力なため残り1手では詰まない。

解いてみれば、7手詰手順(例 ▲76歩 △52玉 ▲33角不成 △42銀 ▲同角不成 △54歩 ▲53銀迄)に対し、先手は2手(▲32歩～▲31歩成)を足し、後手は1手(△42銀)を省略して別の3手(△32飛～△37飛成～△31同龍)を加えた手順：11手=7+2-1+3でした。詰みに関係のある本手順を見せず、僅か1条件だけで限定できるのが不思議で巧い表現でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

渡辺(作者) 「と金と龍を同時に素早く作るのがポイント。9手目と10手目は詰に全く関係ない条件を満たすだけの手」

たくぼん 「何と言っても1条件が素晴らしい。完全とは・・・」

斧間徳子 「最も基本的な詰み形ですが、銀を42ではなく31で取らせるのが斬新であり、何よりたった1条件で限定しているのが凄い。1条件の11手詰って、めったにできないですよ」

はらたつ 「7手詰の変形ですが、と金を成駒で取るという条件が素晴らしいです」

山下誠 「この素朴な条件で成駒が3一のと金に限定されていることに驚きました」

■42の銀を同角不成の1手で取るの7手詰の基本手順。本作はそれを42に角を空成りしてから打った歩が成って31の銀を取る手に振り替えました。基本手順を隠して、無駄手の部分を1条件にしているのが巧みです。

攻めダルマン 「うまい条件ですねやっぱり」

加賀孝志 「簡単明瞭なヒント条件がうまい」

小木敏弘 「角でなく歩で銀を取る味。こういうヒントは難しい、あれこれと試行錯誤しました」

■本作のような簡素条件は、解図ヒントが少ない分、手応えのある推理を楽しめます。

波多野賢太郎 「まずなにより、これだけの条件で手順が決まるのか、というのが驚きでした。歩を打ってと金を作るには、その筋の歩を取ってもらわないといけないので、そこから飛車の活用が思い浮かびました」

小山邦明 「後手の成駒は飛が手数的に最短と考えて取り組みました。簡素な1条件で見事に限定できていてすばらしいと思いました」

孔明 「とっかかりがなく悩みましたが足の速い駒が先手は角、後手は飛車なのでそれぞれ歩を取らせてと金を作るとあっさり解けました」

■すんなり3筋の飛を指せば、早く解けますね。7手詰と8手詰の基本手順を組み合わせた感触です。

飯山修 「先手・後手のどちらが話しているのか全くわからない文章が実にうまい。後手のと金を最初考えたがすぐほぼ不可能と判明。素直に考えれば早い」

■後手のと金の筋は、先手か後手か1手足りませんでした。

金少桂 「11手をたった1条件、それもごちゃごちゃした条件じゃなく簡潔な条件で限定できているのが何より素晴らしいと思う。解く側としては、あまりのヒントの少なさにどこから手をつけたものかわからず、正直に言ってもものすごく苦戦した。間違いなく、次の上級問題より難しいと思う」

■1条件問題は、鍵に気づかないと思わぬ難問になります。もっとも本問は7手詰の変型なので、難度は普通の中級程度で間違いありません。

Pontamon 「52玉を生角+53銀で詰める形の最短は7手。この問題は11手詰なので後手は2手余分に指せるが、飛を振って、成って、戻ってでは3手かかるので、この詰み上がりは無いと最初に除外してしまったのが大失敗でした」

■7手、9手と基本型を覚えると手数計算ができますね。本問では無駄手の足し算だけでなく、引き算(△42銀が不要：マイナス1手)も必要でした。

はなさかしろう 「11手でここまで簡潔な1条件が成立するという事に感服。切れの良い条件に最敬礼すべく裏推理を封印したところ、第一感の△57歩成▲同馬からの両王手狙いが一手足りず、暗礁に乗り上げかけましたが、後手飛の活用がぴったり噛み合っただけでスッキリ解決しました」

■両王手狙いとは「▲76歩 △54歩 ▲66角 △55歩 ▲93角成 △56歩 ▲58飛 △57歩成 ▲同馬 △74歩 ▲84馬」の手順でしょうか。惜しくも42退路塞ぎが足りず、詰みませぬ。

DD++ 「41歩成同龍は守りが強すぎるのと53馬の位置が悪くて詰まないんですが、際どいのでこっちに深入りした人も多そう」

はせ次郎 「条件が少ない、ヒントが少ない問題は考えていて楽しいです。そう言う意味でも楽しい問題です。『と』が先後どちらか解らない、どの筋かも解らない、ただ歩を普通に伸ばしていくのは間に合いそうにないのでお互いに歩を取り合う必要がある。直ぐにひらめくのは76歩 44歩 同角 42飛 53角成 47飛成 42歩 ××× 41歩成 同竜・・・あと1手ではどうしても詰まない。じゃあ3筋なら、で見事に解けました」

まさ 「32飛か42飛の2択。最初は42飛～41龍の筋を読まされた」

占魚亭 「最初4筋にと金を作るのかと思いましたが、3筋が普通ですよ」

諏訪冬葉 「▲44角▲53角成の方が早いかと
思ったら、竜が強くて詰まなかった」

■一目、53馬が残るので4筋でも詰みそうな
感じだが、龍の効きが強かった。早く解けるか
どうかは指運ですが、4筋から考えた方は2局
分楽しめました。

柷 彰介（無解） 「ヒント後に解けたら再解答
します。普通に自陣の歩を進めて成るには4手
かかるのをどうするか、ですね」

■角と飛で歩を取り合う順の発見が解図の第一
歩。追加ヒントが足りませんでしたか？

変寝夢 「プラス条件で"初手76歩"、"2手目
32飛"、"3手目33への着手"、"6手目37
飛成"、"9手目31歩成"、"10手目同龍"を指
定して、2分281万局面でした。7手の詰め
上がりを用いて作る場合は、無駄手をどう面白
くするかが大変な作業かと思えます」

■3筋の手を全部指定してしまうとは・・・初
期条件多すぎませんか？4筋とか他の筋の検討
はどうでしょうか。

のくせに 「と金で成駒を取る順をしばらく考
えて手が足りず悩む」

S.Kimura 「と金で成駒を取る、と勘違いをし
たため難儀しました」

隅の老人B 「条件はたったの二つ、これで手
順が決まるとは！条件の3文字目、『を』を
『で』と読み間違えて大苦戦。ハイ、老眼鏡の
買い替えですね」

■短い1条件問題でも、同じ読み違いをされた
方が約3名。

くるぼん 「序盤が95-1に似すぎているのは
偶然？」

NNN 「ヒントを見るまで全く条件を満たす手
に気付きませんでした。なんとも見事に一条件
になっているものですね。後で気付きました
が、1問目と先手の手が途中まで一緒だし、詰
み上がりも似ていますね」

■手順は2手目が異なっており、52玉型の詰
形も種々あります。似て非なる手順と形を味わ
ってご鑑賞ください。

正解：27名

飯山修さん S.Kimuraさん NNNさん 加
賀孝志さん くるぼんさん 小木敏弘さん 斧
間徳子さん 金少桂さん 孔明さん 小山邦明
さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 攻めダ
ルマンさん 占魚亭さん たくぼんさん

DD++さん のくせにさん はせ次郎さん 波
多野賢太郎さん はなさかしろうさん はらた
っとさん 変寝夢さん Pontamonさん まさ
さん 山下誠さん RINTAROさん 渡辺さん

95-3 上級 チャンプさん作

美野樫9兄妹の一局(その9) 18手

健一「よしよし次は誰で行くかな」

九美「なあ健にい、ウチ一人でやってみたら
ダメかなあー？」

健一「九美ひとりでか？」

七海「わたくしからもお願いします・・・」

八重「やるからには勝ちなさい」

六実「うんうん、ちゃちゃっと倒してきて～
九美ちゃん」

隆二「兄ちゃんたちも応援してるぜ」

九美「うん、がんばってみるよおー」

・・・対局開始・・・

九美「ウチの後手だねえー」

九美「ふうーんキミはイキナリ飛を動かすん
だあー」

九美「あ、7手目から同と付く手が3回続い
たねえー」

九美「これで詰みかなあー？18手で終わっ
ちやったねえー」

九美「最後の角の手までウチ小駒ばかり指
してたなあー」

九美「成る手も不成の手も無かったのは珍し
いかもねえー」

圭五「マジかー！九美ってあんなに強かった
っけー？」

四郎「実は今回に向けて九美が一番練習して
きたんだよね」

源三「知らなかったわ、わしとは意気込みがちやうな・・・」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・18手で詰んだ
- ・後手は9筋の着手のみ
- ・初手は飛の着手
- ・7～9手目は同と付く着手
- ・成る手も不成の手も無かった
- ・最終手の角が後手唯一の大駒の着手

出題のことば (担当 NAO)

成も不成もダメ。9筋での小駒の活用法を推理しよう。

追加ヒント

初手78飛。後手は10手目に94歩と打った後、角香を取る。

推理将棋95-3 解答 担当：NAO

- ▲7八飛 △9四歩 ▲7六歩 △9五歩
- ▲7七角 △9六歩 ▲同歩 △同香
- ▲同香 △9四歩 ▲9五角 △同歩
- ▲6八玉 △9六歩 ▲7七玉 △9七香
- ▲8八玉 △9九角 まで18手

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一		科	科	科	王	科	科	科	皇	
二		飛							馬	
三		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四										
五										
六		歩								
七		皇	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八			玉	飛						
九		馬	桂	銀	金		金	銀	桂	香

持駒 香歩

(条件)

- ・後手は9筋の着手のみ
- (94歩～95歩～96歩～96同香～94歩～95同歩～96歩～97香～99角)
- ・初手は飛(▲78飛)

- ・7～9手目は同と付く着手 (▲96同歩 △同香 ▲同香)
- ・成る手も不成の手も無かった
- ・最終手の角が後手唯一の大駒の着手(18手目△99角)

美野樫兄妹シリーズの9問目は、九美が一人で9筋の端攻めで勝つ将棋。一人指しは、八重(89-3)、圭五(92-2)に続いて3局目ですね。成る手も不成の手もないので、指し手が限定されます。18手の長手数のため上級の出題ですが、手数が長い割には易しく、難度は中級クラスです。

"成る手"も"不成の手"もないので、敵陣に入る手と敵陣の駒を動かす手がないことがわかります。ただ、敵陣に打つ手は許されていることに注意して詰み形と手順を推理しましょう。

1.7手目～9手目は同の手が3手続く。7手目に"同"で歩以外を取る手はなく6手目は歩。△96歩か△95歩だが、△95歩▲同歩△同香の筋は先手の手が足らず失敗。よって△96歩▲同歩と進める。初手から9手目まで「▲XX飛 △94歩 ▲XXXX △95歩 ▲XXXX △96歩 ▲同歩 △同香 ▲同香」

2.最終手は角。9筋着手だけでは居角の22角は使えず、最終手は角打ち。角は成りも不成も絡まない9筋=95地点で入手する。先手は▲76歩～▲77角～▲95角と協力する。3手目以降「▲76歩 △95歩 ▲77角 △96歩・・・▲95角」

3.後手の10手目。駒を動かす△93桂は後手の手が足らず失敗。残りは歩を打つ手。94歩から角香を入手する。10手目以降「△94歩 ▲95角 △95歩 ▲XXXX △96歩・・・△XX角」ここまで、後手は14手目△96歩で角香を入手した後、16手目と18手目(角打ち)の2手が未確定。先手は保留手を含め、初手(飛), 13, 15, 17手目の4手が未確定。

4.詰形の推理。最終手9筋角打ちで詰む形は8筋玉に斜め下方から角打ちの筋があり、角を香で支えるので効率がよい。未定の13, 15, 17手目は8筋への

玉移動に当てると詰形は"86 玉に 97 角", "88 玉に 99 角"のいずれか。前者は退路が多く失敗。後者は▲78 飛～▲88 玉－△97 香～△99 角の形がぴったり。初手は▲78 飛に決定。1 3 手目以降「▲68 玉 △96 歩 ▲77 玉 △97 香 ▲88 玉 △99 角」まで。

選ぶ手は限られているので条件に導かれるように解ける解答者に優しい中編の良問でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

チャンプ(作者) 「9 回目にちなんで九美(9 筋)が主役の回です。手順前後回避のため、やや条件が多くなっています。詰みに向かう 4 手は結構面白いかなと思ってます。難度は手数のこととも考えると上級でしょうか」

のくせに 「条件が厳しいので手が狭く、最終形もこれしかないので、手数の割には上級感がなくあっさり解けました」

小木敏弘 「ヒントが多くありがたい。角を取る場所が限定でき、詰み形がだいたい予想されました」

榊彰介 「このシリーズは、1 人指しの方が手が限られるので優しい感じがします。トドメが角打ちが大きなヒントで、詰め上がりがすぐ浮かんだので 9 5 - 1 より先に解けました」

S.Kimura 「後手に角を取らせる手順に気づいたら、意外と簡単に解けました」

攻めダルマン 「条件から詰上がりが見えた。手順は面白いと思うが条件を何とかしたい感じ」

NNN 「上級というにはやや易しい感じはしました。(9 筋条件が厳しいため手の選択の幅が狭いからでしょうか?) とはいえ難易度設定の問題なだけで、このとても面白い手順が私は大好きです」

隅の老人 B 「初手が決まれば、後はスラスタ。意外と易しいが、手順が長いので上級。予想通りの最終手でした」

■多い条件がそのままヒントになったので、難度は中級クラスでしたね。

斧間徳子 「初手の飛の位置を限定するには 78 飛しかなさそうで、しからば 88 玉を 99 角打で仕留める最終形が見えてくる。詰パラ 10 月号の No.271 (16 手詰) とよく似た詰み形なので思いつきやすい」

はせ次郎 「詰めパラ 10 月号の問題がヒントになって解きやすかったです。ヒントから初手は 7 8 飛、角は 7 7 ~ 9 5。玉は飛車を乗り越えて 8 8 へ。香の筋で 9 9 角までの詰み上がりが見えました。あとは指し進めて見事正解！」

■詰パラ 271 番とは 88 への玉の軌跡が同じでした。

渡辺 「これは論理的に詰形と手順が推理できる良問です。前半はまあまあ普通の手順、後半の先手の手順は九美ちゃんの魔眼が働いたか。

条件から後手の 9 筋以外の歩と 22 角は釘付けなので、最終手は角を打つしかなくその角の入手場所は 95 しかない。よって先手 76 歩、77 角、95 角は必須。詰形も 88 玉 99 角が最も先手の手数が少なくて済む。よって 78 飛、68 玉、77 玉、88 玉が必須。あと、条件から 2 手の 9 筋の同の手が必須でこれは 96 同歩、96 同香しかなく、以上から先手の手は下記となる(*68 玉の手順は 76 歩の前から 95 角の後まで可)。

78 飛、76 歩(*), 77 角(*), 96 同歩、96 同香、95 角(*), 68 玉(*), 77 玉、88 玉
7 手目 96 同歩となるためには、6 手目まで歩突きで 8 手目は 96 同香しかない。
78 飛、94 歩、?、95 歩、?、96 歩、同歩、同香、同香、…ここで後手は歩しか持駒がなく 9 筋に移動可能な有効な駒がない(桂は無意味、飛は条件違反)

ので、歩で角香を取る必要がある。すると、後手の残りの手は 94 歩、95 歩(角取り)、96 歩(香取り)、97 香、99 角しかなく、先手は 12 手目の 95 歩より前に 95 角とする必要があり、先手の 68 玉は 95 角の後に確定。これですべての手順が確定する」

■ロジカルな推理順を披露していただき感謝。条件が厳しいので推理には種々のアプローチがありそうです。

DD++ 「初手の飛車振りが玉移動の邪魔になりそうなのを回避すること、76歩のタイミングが手順前後しそうなのに限定条件がないこと、あたりを考えれば作意を発見するのは手数ほど難しくありませんが、完全性の検討は大変」

■引き継ぎ前に十分に検討いただき助かりました。

はらたつ 「成も不成もダメという条件で97より下の着手はないと勘違いをして時間がかかりました」

■7段目も9段目も打つ手はOKですから。勘違いに注意。

Pontamon 「成も不成もダメなので敵陣への着手は無いと思いつくのは畏れと警戒しつつ、詰み形から考えました。77玉に▲86香や88玉に▲78香など退路塞ぎの香打ちの形がありますが、初手飛では手数が足りない。香を使わずに初手78飛でも玉が77を經由して88へ来る手がありました」

■77玉を詰ますには、初手の飛が遊び手になり、先手の手が不足しますね。

はなさかしろう 「解図の手掛かりに使う条件が多いので枠組みを捉えるまでに時間がかかりましたが、同条件と、角は95で取らせるしかないということが強い制約。玉位置は本命77対抗86でしたが、なるほど、初手飛を活かせるのは88ですね」

諏訪冬葉 「"▲93桂▲94香▲97角", "△86玉△76歩△77桂"という詰み型が浮かんでしまったが実現できなかった。飛車はそう使うのか・・・」

■△93桂▲77桂とすると手が足りず、86玉には届きません。

占魚亭 「角の取り方と詰み形に大いに悩まされました」

小山邦明 「最終手は99角打と予想できると、7手目と9手目に『同』が付くには後手の歩をのばす必要があるので、選択できる手がかなり限られている印象でした」

孔明 「初手が飛車なので7～9手目は9六の地点しかなく、また敵陣に駒を進めれないので角を取らせるのは9五しかないので手順は簡単でした。最後の角打ちの場所でちょっと悩みました」

■99以外の打ち場所の候補は98,97などありますが、18手では不足です。

まさ 「初手飛で詰み形が見えるのと、7～9手目の縛りが厳しいので殆ど考える所はない、易しい中編啓蒙作」

くるぼん 「玉の位置および詰み形がまったく浮かばず大苦戦。ヒントで78飛の必然性を考えたらとけました」

波多野賢太郎 「初手の飛車の着手が重要なポイントだと思いつつ、最初は意味が分からず悩みました。この詰み形が閃いて、なるほどなあと思えました。18手の長手数でしたが、条件がたくさんあったので思っていたよりは難しく感じませんでした」

■初手は保留しておいて、詰形が決まってから78飛が確定します。裏読みで初手78飛が指せればあっさり解けます。

加賀孝志 「ストレート最短探し」

山下誠 「10手目9四歩のヒントで、角を渡す絶妙の手段にやっと気付きました。後半、墓場へと向かう玉の動きがピッタリ間に合っています」

飯山修 「長手数の割に指手が限定されているので同の3連続をどうするか推理する問題。結局遊び手がないスッキリした作意となった」

たくぼん 「ぴったりと手順が 18 手に収まることに様式美を感じます」

■解いてみれば、詰みまで一直線でした。

変寝夢 「プラス条件 1 3, 1 5, 1 7 手は玉、1 1 手目終了時に 9 5 角がある、1 2 手目は角取り、で 3 0 万局面 2 0 秒です。終盤の玉の動きの限定と 7 8 飛の条件付けの呼応が絶妙」

■18 手となると計算も大変でしょう。

金少桂 「条件の多さと 18 手という長さに一瞬面食らうけど、9 筋条件の縛りがきつく、最終手角と成生なし条件から 95 で角を受け渡されることがわかる。

後は考える前にとりあえず駒を動かしてみたら自動的に詰んでしまった。手数こそ長いけれど、初級か中級でいいと思う。ところで、九兄妹シリーズもついに 9 試合目ですね。いったいどれだけ大規模な大会なのでしょうか (笑)」

■まだまだ続きますよ (笑) 続編をお楽しみに。

正解：28 名

飯山修さん S.Kimura さん NNN さん 加賀孝志さん くるぼんさん 小木敏弘さん 斧間徳子さん 金少桂さん 孔明さん 小山邦明さん 隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん 攻めダルマンさん 占魚亭さん たくぼんさん DD++ さん のくせにさん はせ次郎さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん はらたっとさん 変寝夢さん Pontamon さん まささん 榊彰介さん 山下誠さん RINTARO さん 渡辺さん

総評

波多野賢太郎 「ちょっとお休みをしていましたが、今回から再び参加します。推理将棋はやっぱ面白いです。九兄妹シリーズがまだ続いていてちょっと嬉しかったです。また、2 番のような 10 手以上で条件が限りなく少ない作品にも今後期待したいです」

まさ 「解図意欲をそそる条件の作が並んでいたのでも徐々に解答します。どれも易しくて良かったです」

はらたっと 「ご無沙汰しております。1 年ぶりに 3 問期限内に解けましたので回答送ります。来月も頑張りたいと思います」

■久々解答のみなさま、お帰りなさい。今後もよろしくお願いします。

飯山修 「前より早く解けるようになったのはうれしいが、『推理将棋脳』に変化していると考えると恐ろしい」

■独善の読みが冴える推理将棋脳。指し将棋の棋力は角一枚弱くなること間違いなし。

はなさかしろう 「中級の 6 手目までは自作 11 手で使ったことがあったことに解いてから気付いたのですが、見返したらそれは 5 年以上前のこと。忘れっぽくなった原因はいろいろなのでしょうけれど、最近はもう、5 年経ったら仕方ないか、という感じです」

■自作手順を忘れてしまったら、もう一度推理を楽しめるということです。

斧間徳子 「今月は 95-2 が一番難しかった」

小木敏弘 「ヒントによって難易度が左右される部分があると思いました」

孔明 「2 と 3 は条件だけ見ると解きにくそうでしたが実際解いてみると意外と簡単でした」

渡辺 「今回は 2 が自作なのと 3 が楽だったので早めに解答を送れます」

榊彰介 「9 5 - 1 と 9 5 - 3 は、ヒント前に解けました。少しずつ、推理のポイントが掴めてかた気がします」

はせ次郎 「今回は、ヒント前の解答でうれしいです」

Pontamon 「2 ヶ月連続で総評を書き忘れていました。

上級は手数は長くても、各駒種の着手は限られるので、あっさり解けましたが、中級は"と金"を成駒で取る最短手順を探索しなければいけないという苦行になりました。(解図方針を誤ってしまった自業自得なのですが) 13手なら、先手や後手の"と金"を成駒で取る手順を沢山見つけ、その一つから11手詰作品を作れたのがせめてものの収穫です」

隅の老人B 「11月の中旬、久しぶりに今日は雨。外出が出来ない暇な爺さん、こんな時には推理将棋を考えよう。3題が解けても雨がまだ降っている。さて、この次は何をしようかな、です」

変寝夢 「今月は締め切り前ヒントで助かりました。バグも一つ消すことが出来たのでラッキーです」

たくぼん 「今月は易しめでよかったです」

諏訪冬葉 「ヒント前に解けていたのに気付いたら締め切り前日でした」

■易しめの選題で、解答者数更新できました。ありがとうございます。

DD++ 「そろそろ回数は3桁の大台が見えてきましたね。特集作の募集もずらり。第100回は作りやすそう、対して第101回は大変そう……」

■年賀詰と特集作、ご投稿よろしく。

推理将棋第95回出題全解答者： 28名
 飯山修さん S.Kimuraさん NNNさん 加賀孝志さん くるぼんさん 小木敏弘さん 斧間徳子さん 金少桂さん 孔明さん 小山邦明さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 攻めダermanさん 占魚亭さん たくぼんさん DD++さん のくせにさん はせ次郎さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん はらたっとさん 変寝夢さん Pontamonさん まささん 榊彰介さん 山下誠さん RINTAROさん 渡辺さん

フェアリー作品かってに紹介

・詰工房オールカマー2015 <7>

金子清志作 自殺詰 1640手「Electrode」

			ス	ス		ス			一
龍				と					二
	と	と	と	と	と	と		と	三
				馬			王		四
桂		歩		歩	歩	歩		歩	五
玉		歩	龍				歩	歩	六
歩							歩	桂	七
桂	歩							歩	八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

包(パオ)入りの自殺詰の長手数作品。詰工房300回記念を飾るに相応しい大作でしたが残念ながら早詰(指摘:たくぼん320手、橋本孝治氏400手)作意・早詰手順は詰工房のページで確認下さい。

・占魚亭残日録(12/3の記事より)

占魚亭作 背面ばか詰7手

a) 利き二歩有効 b) 無効

									一
									二
									三
									四
				龍	王	龍			五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩2

先月紹介したブログに掲載された作品。フェアリー時々詰将棋でも紹介された佳作。手順はブログで確認下さい。これには感心しました。

第 43 回神無一族の氾濫の課題「フェアリー駒を使った作品」を考えている中で、詰上りに駒柱が現れるパターンがいくつかあることを発見しました。

例えば、【その 1】は、攻方盤駒：14 王、攻方持駒：角 G 4、受方盤駒：51 玉の、協力自玉スタイルメイト 10 手の最終図です。

出題するほどでもないと思いますが、埋もれさせるのも何なので、他のも含めてここに最終図のみまとめて掲げておきます。

見ようによっては一文字なので、年賀詰にもいいかも。

【その 1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
				G					二
				飛					三
				G			王		四
				飛					五
				G					六
				角					七
				G					八
				王					九

持駒 なし

【その 2】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
				G					二
				飛					三
				G			王		四
				飛					五
				G					六
				角					七
				G					八
				王					九

持駒 なし

【その 3】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一
						G			二
						角			三
						G			四
						王			五
						G	王		六
						飛			七
						G			八
						王			九

持駒 なし

【その 4】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一
						G			二
						角			三
						G			四
						王			五
						G	王		六
						飛			七
						G			八
						王			九

持駒 なし

【その 5】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
				G					二
				角					三
				G					四
				飛					五
				G			王		六
				飛					七
				G					八
				王					九

持駒 なし

【その6】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				㊦					一
				G					二
				角					三
				G					四
				飛					五
				G				王	六
				飛					七
				G					八
				王					九

持駒 なし

【その7】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
㊦	G	角	G	角	G	桂	G	王	六
									七
									八
							王		九

持駒 なし

【その8】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
王	G	角	G	角	G	桂	G	㊦	六
									七
									八
							王		九

持駒 なし

【その9】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王				一
									二
									三
									四
㊦	G	角	G	飛	G	飛	G	王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【その10】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王				一
									二
									三
									四
王	G	角	G	飛	G	飛	G	㊦	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【その11】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
㊦	G	角	G	桂	G	角	G	王	六
									七
									八
					王				九

持駒 なし

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2016年1月15日(金)

フェアリー版くるくる作品展5
協力自玉詰 2題

ちょっと早い2016年年賀詰作品展
フェアリー作品 2題

2016年2月10日(水)

フェアリー入門
強欲詰、禁欲詰 4題

2016年2月15日(月)

第78回WFP作品展
フェアリー作品 12題

作品募集一覧

フェアリー入門

課題：Q(クイーン)を含む作品、1,3,5手の最善詰、協力詰

募集締切：2016年3月10日

送り先：

(橘圭伍) keigotatibana@hotmail.com

詳細は、P9をご覧ください

フェアリー版くるくる展示室

- ・ 盤は9×9、駒は普通の将棋駒及び駒数内(フェアリー駒はとりあえず不可)
- ・ 後手持駒制限 OK
- ・ ルールは何でも OK(協力詰、かしこ詰、打歩詰、自玉詰系、ステイルメイトなど何でも OK)
- ・ 手数制限なし

フェアリー版くるくる展示室(ばか自殺詰)

持駒：歩18を含み、手順に「…」×17(18)を含む ばか自殺詰(詳細はP17をご覧ください)

投稿先は、WFP編集部 たくぼん
takuji@dokidoki.ne.jp

Fairy of the Forest #46

課題：龍または攻方王が活躍する協力詰
投稿締切：2016年1月15日

(投稿先)

→酒井博久(sakai8kyuu@hotmail.com)
詳細はWF P89号P.33をご覧ください

あとがき

今年も終わりましたね。個人的な話ですが、今年の私をちょっと振り返りますと、1月に父が亡くなりました。2月に孫誕生、6月に会場に行ってきたまたまた東予アマ名人戦B級で思いがけない優勝、9月バドミントン四国総合選手権大会ダブルス55歳以上の部で初優勝！初めて四国チャンピオンになりました。11月詰工房オールカマー2015で最優秀解答者賞を頂きました。サンフレッチェ優勝もあり、まあ1月を除いて良い？1年でした。皆さんはいかがでしたでしょうか。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

結果稿を読んだ感想、意見、返信等ありましたらメール下さい。改訂時スペースに追加掲載します。(25日前後まで) たくぼん

2015年 第90号

Web Fairy Paradise

非売品

平成二十七年十二月号

平成二十七年十二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合せ先 takuji@dokidoki.ne.jp